

育教の兒幼

號二十第 號月二十 卷八十三第



內校學範師等女子京東
會協園稚幼本曰

草川 信・坊田かずま 兩先生編
唱ひ方の附いた

(新刊)

新幼稚園唱歌

四六倍判美本
定價金八拾五錢
送料金拾二錢

可愛い幼兒の唱歌として又子女を愛する「母の歌」としてこの美しい御本を皆様にお薦めいたします。各幼稚園各家庭から續々御注文を頂いてゐます。

草川先生作曲 タンポポ(中村雨紅)夕焼小焼(同上)ヨロヒムシヤ(河井醉名 ままご)濱田廣介(野口雨情)舟遊び(野口雨情)夕立(濱田廣介)波のりあそび(同上)ナツヤスミ(河井醉名)おもちゃの舟(野口雨情)子ねこの目(濱田廣介)ジャンケンポン(野口雨情)山の兎(濱田廣介)おはやう(同上)だるまさん(野口雨情)花咲爺(同上)

坊田先生作曲 わたしの幼稚園(三宅のぶ子)赤らちゃん(同上)鯉のぼり(達崎龍一)遠足(三宅のぶ子)子雀おや雀(相馬御風)七夕まつり(渡邊千秋)お早やう(三宅のぶ子)可愛い兎(同上)飛行機(同上)ドナタの細道(同上)千代田のお城(野口雨情)正月來い(三宅のぶ子)ひなまつり(渡邊千秋)花まつりの歌(同上)仔熊のお角力(山北しげり)(括弧は作歌者)

林 松 木 先生 著

新刊
詳述
明解
唱歌
教授
辭典

定價金壹圓千九錢

エホンシヤウカ	ハル・ナツ・アキ・フユ	各 .35
エホシシヤウカ	第ナツ・アキノマキ	各 .40
坊田かずま	ヌリエシヤウカ	各 .35
子供	の舞踊	一、二 各 .60 .08

東京市神田區 錦町三十一番 音教書出版協會 電話 〇七七八三 振替東京 四六四七 三三三

生徒募集

本科生 四十名 研究生 若干名

願書受付三月二十日迄規則書は参銭切手
封入の上申込まれよ。

創立以來廿四年。

大正五年東京市麴町區に創立。

昭和二年武藏野の中なる現在地に新築、
附近に森あり、野あり、川ありて四時自
然の恩恵を受け、本校の特色とする自然
觀察、博物採集、圖畫寫生、自然物應用
の手工等材料豊富なり。

玉成保姆養成所

所長 ソフアヤ・アラベラ・アルウ井ン

東京市杉並區西高井戸一丁目一三三
省線 西荻窪下車直南約五丁

平安女學院保育科

修業年限二箇年・保姆及母として
の學習、實習、研究

(入學案内要三錢切手)

保姆・小學教員無試驗檢定資格有

第一學年 參拾名募集

出願受付 自一月八日至四月四日

京都市上京區下立賣通烏丸西入

平安女學院

なほ英文科・家政科・家庭科及豫科・平安幼稚園・平安高等女學校あり

生徒募集

本科生 四十名 研究生 若干名

願書受付三月二十日迄規則書は参銭切手
封入の上申込まれよ。

創立以來廿四年。

大正五年東京市麴町區に創立。

昭和二年武藏野の中なる現在地に新築、
附近に森あり、野あり、川ありて四時自
然の恩恵を受け、本校の特色とする自然
觀察、博物採集、圖畫寫生、自然物應用
の手工等材料豊富なり。

玉成保姆養成所

所長 ソフアヤ・アラベラ・アルウ井ン

東京市杉並區西高井戸一丁目一三三
省線 西荻窪下車直南約五丁

平安女學院保育科

修業年限二箇年・保姆及母として
の學習、實習、研究

(入學案内要三錢切手)

保姆・小學教員無試驗檢定資格有

第一學年 參拾名募集

出願受付 自一月八日至四月四日

京都市上京區下立賣通烏丸西入

平安女學院

なほ英文科・家政科・家庭科及豫科・平安幼稚園・平安高等女學校あり



號二十第 育 教 の 兒 幼 卷八十三第

—(次 目)—

口 繪

卷頭(うしろ向き) 倉橋惣三(一)

兒童と社會訓練 依田 新(二)

殘花集園 石川 謙(七)

幼稚園に於ける健康教育の試み 穂積篤子(一〇)

可愛いゝ慰問 (一五)

關西聯合保育大會建議案 (一六)

ハイデイ——ヨハンナ・スビリ原作 津田芳雄譯(三)

幼稚園保育に於ける時局的反省の問題(四) 倉橋惣三(四)

本誌三十八卷總目次 (五)

倉橋惣三編 (新刊)

新體幼稚園唱歌

四六倍判
定價(送料共)
金七拾錢

目 日本国旗の丸の旗
倉橋惣三作曲
小松耕輔作曲
次 道 ぶ し ん
井上武士三作曲

いうびんやさん 倉橋惣三作曲
弘田龍太郎作曲
渡し場の船頭さん 倉橋惣三作曲
中山晋三作曲
火消しのちぢさん 倉橋惣三作曲
小林つや江作曲

日本幼稚園協會編 (新刊)

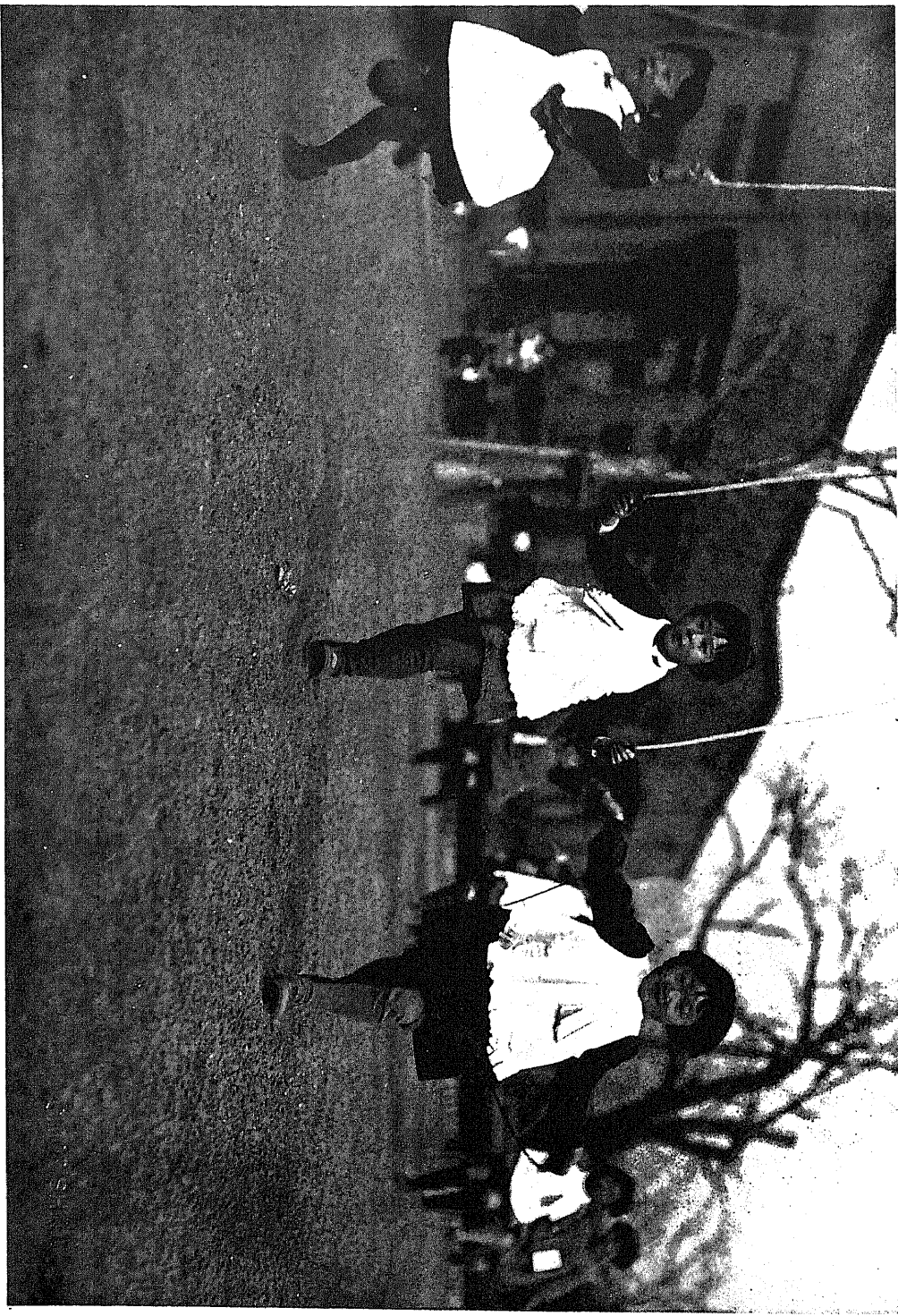
幼稚園新唱歌

四六倍判
定價(送料共)
金五拾錢

目 め だ か
小山村耕輔作曲
小杉山米子作曲
小松耕輔作曲

ほ た る
青山綾子作曲
小松耕輔作曲
氏原鏡子作曲
小松耕輔作曲

〇この二つの新刊幼稚園唱歌集は、幼稚園の爲に新しい歌曲を求めて居らるゝ方々に必ずや充分歡迎せらるることを期待してゐる。



寒風丸切る

幼 児 の 教 育

昭 和 三 十 年 十 二 月

うしろ向き

わたしが子ぎもをぢつこ見るのは、そのうしろ向きだ。まへ向きに相對しては、
笑みかわすか、話しあふか、手をこりあふか、戯れに争ふ形をこるか、なににし
ても相互いの交渉であつて、ぢつこ見る暇も隔でもない。たゞ、うしろ向き
だけは、心をこめて眺めるこゝが出来る。

繪を描いてゐる子の、少し斜に傾いて一心な首すぢ。砂場に遊ぶ子の、力を盛
りあげた兩の肩。小鳥に見入つてゐる子の、すらりこしてわだかまりのない立
姿。さては、かゞみ腰に毬をついてゐる子の、房々さお下げのゆらぐうなぢ。な
んさいふ豊富な表情であらう。

前に廻つても見たいが、目をあはせては、その無心を素すおそれもある。せめ
ては横顔をさも思ふが、いゝえく、そつこ、しかし、ぢつこ、うしろから眺め
させて貰つて置かう。そこでは、子ぎもの心の動きに、たゞ同じ方向にのみ追隨
してゐるこゝも出来るのであるし。

(倉橋密三)

兒童と社會訓練

東京高等師範學校教授

依田新

子供さいふものは私等の世界では特別扱ひを受けて居る。子供が電車の中で何か分らずを言つて泣き騒いでも、餘程我々の神經が焦立つてゐる時でもない限り、うるさいと言つて、叱りつける人はゐない。又何か子供が悪戯をしても子供だからさいふ理由で大抵は黙許される。即ち、我々は子供の世界と大人の世界とは全く異つたものださいふ考を一般に持つてゐる。だから大人の世界のプリンシプルを子供の世界に持ちこむこゝを遠慮してゐる。勿論、この様な考へ方は比較的新しい考の方であつて、これには最近の兒童心理學の發達さいふ様なこゝが非常に影響してゐると思ふ。だから我々の父或は祖父等が未だ子供であつた時分には今日の様な子供の安全地帯はなかつた。即ち、少し前の社會の持つてゐた兒童觀では子供は厄介物であり、できるだけ早く一人前の大人にするこゝが必要であつたので、大人の世界の秩序を子供が理解するこゝ否に拘らず子供に強制してゐた。それが約半世紀の間に社會の兒童觀さいふものがすすつかり變つてしまつた。もう今日では子供は小さな大人であるさいふ様な考へ方を持つてゐる人は、少くも教養ある人々の中には一人もないと言つてよい位である。

この二つの極端な兒童觀のどちらが正しいかは輕々に決定しかねる問題であるが、兎に角夫々にかかる兒童觀を生んだ所の社會的必然性を擔つてゐたさいふこゝだけは事實である。新しい社會は常に新しい兒童觀を作り出して來る。だからこそ兒童並に婦人に對する社會的關心の程度によつてその國の文化水準が知られるこゝさへ言はれるのである。今日は日本を中心として世界の體制が大きな變化をなしつつあるが、かういふ様な社會の變革期に於てはそれが兒童觀にも反映せざるを得ない。その顯著な現れの一つは學制改革への機會である、或は教育問題への社會關心の昂揚である。何故ならば教

育組織といふものはその社會の持つ兒童觀の具體化された形であるを見るこゝが出来たらうから、従つて既に出來上つてゐる教育組織を變革しようとする動向の背後には既成兒童觀の動搖といふこゝが看取される。

即ち、子供は大人とは全く別なものであるといふ所謂新らしかつた兒童觀が今日色々な點で問題にされかかつてゐる。例へば「子供は國家の子供である」さか「日本の子供は日本の國民にしなければならぬ」さか言ふ様な言葉を我々は屢々耳にきいてゐる。子供は決して子供の世界にほつておかれてはいけない。さうしてこの子供等を次の國民に育て上げるかといふこゝが新らしく興らうとするものにまつて重大な關心を惹くこゝは當然である。こゝに社會の子供への働きかけとしての子供の社會化或は社會的訓練といふこゝが當面の問題となつて來た譯である。

二

而してこの子供の社會化といふこゝには色々な問題が起つて來る。若し從來考へられてゐた様に、子供は子供の世界に住んでゐる大人の世界とは全く別な天地であるとする、大人の要求する道徳、即ち、我々の社會生活上の色々な約束を子供の世界に持ちこむといふ事は不可能になる。のみならず、その子供の世界の根本的特徴は自己中心主義といふこゝであつて、自己に屬するものゝ然らざるものゝ未分化の爲に何でも自分を中心にして考へるものであるとする、子供等自身も未だ眞の社會生活といふものを持つてゐないといふこゝになる。こゝに子供の社會的訓練の困難さが倍加されてゐる。

そこで我々は一應子供の自己中心主義を認めると同時に、さうしてそれを社會化して行くかといふこゝを考へなくてはならない。即ち、子供は大人ではないが、さうして彼等を大人にするかといふこゝを考へる必要がある。その爲に私は子供の世界と大人の世界との接觸する面——たゞへ子供の世界が大人の世界とは全然別なものであつたにしても、彼等が我々大人の社會に生活して行き得る爲には何等かの接觸面がないこゝはない——を考へて見よう。その様な接觸面で最も重要なのは家庭であり、その他學校(幼稚園を含めて)、子供雜誌、ラヂオ等々があげられるであらう。

家庭に於て、親は大人の世界を代表して子供の世界と接觸してゐる。こゝに家庭を通じて、大人の世界の秩序を徐々に子供に理解させ得る可能性がある譯で、家庭の躰けが子供の社會的訓練の爲に非常に重要な役割を持つこゝになる。所が實際には却て家庭が子供の我儘を増長させる場所になつてゐる。親は大人の世界を代表して子供の世界を否定するものゝ

してよりは、寧ろ二つの世界の境目にある子供等の世界に加へられる所の大人の世界からの壓力を防いでゐる様な役目をしてゐる。一體完全な自己中心主義はこの現實の世界から完全に遊離されてゐて始めて存在し得るもので、親によつてかははれてゐる家庭の中こそかかる場所に近いものである。従つて家庭は子供の社會化の機能よりも寧ろ子供の自己中心主義を保護し育成する機能を行つてゐる。

勿論、家庭のこの様な機能は子供の健康な發達の爲にある程度迄は必要である。かの勞働者階級の子弟の場合の様に、両親が共に外に働きに出てゐるさか、家が狭すぎるさかで、子供等が街頭に空地に直接に現實の大人の社會にさらされてゐる様な場合には子供の自己中心主義は比較的早くなくなるさかである。かういふ子供等は可成り早くから生存手段を獲得し、社會的適應を示すけれども、即ち、早く大人にはなるけれども、觀念内容が兎角貧弱になり易い言はれてゐる。この事から考へても、子供の世界と大人の世界との接觸は成るべく間接的である方が望ましいと言はなければならぬ。従つて社會は家庭のない子供等の爲に、あつてもその機能の不十分な子供等の爲に、一定の施設を設けて彼等を大人の世界からの壓力から護つてやることはたしかに必要である。

かくの如く家庭の中に親によつてかははれる事によつて子供の世界には我々の目に餘る「我が儘」が出て來る。同時に、子供は子供として健全に育てられもする。こゝに一般に、子供の世界と大人の世界との接觸面にある所の、親、教師、保姆及び子供に對する諸文化施設等の重要な教育的機能が存在する。下手をすれば、手のつけられない我儘にするか、或は子供らしい健康を失つた小さな大人を作つてしまふ。即ち、之等の教育機關はある程度迄子供の世界を大人の世界から守つてやる。同時に、大人の世界を子供の世界に仲介することに依つて彼等を社會化する機能を十分に發揮しなければならぬ。この點が今日家庭教育が問題になり、子供の雜誌が問題にされてゐる所以である。

三

所が、家庭ではさうしても親は必要以上に子供をかばひ、子供は又親に依存するさか、結果になつて十分な社會的訓練は困難である。大體、社會意識さかものは、自分の能力に對する抵抗を感じる所から發生する。自分の欲するものが常に親によつて與へられるさか、自分に抵抗する自己ならざる世界さか、いふものが意識されない。従つてかゝる場合にはいつ迄も自己中心主義が持ちつゞけられて行く。夫故に色々な事をすべて自分でやらなければならぬさか、いふ事にな

るこゝ、自分には出来ない。自分の思ふ様にばかりにはならない世界が體驗され、それによつて今迄の自己主義が次第に破壊されて行く。自己中心主義の破壊といふ事は即ち社會化に他ならない。

併し乍ら、こゝで注意すべきことは、子供に外界の抵抗を餘りに屢々經驗させるこゝ、子供は自分の無力感、劣等感を強く意識する様になり、その劣等感から逃れようとして自分の圍りに壁を作つてしまひ、外部との交渉を絶ち自分獨りの空想の世界をこしらへ上げてしまふ。かうして反社會的になつてしまつた子供が時々あるから餘程注意しなければならぬ。子供の非社會性を餘りに早く社會化しようとして却て反社會性を作り上げるこゝは屢々見られるこゝである。

さうするこゝ、一般に家庭は子供にまつて餘りに安全地帯でありすぎるし、さうか言つて彼等を餘りに早く大人の世界に馳りたてるこゝは又子供を健全に發達せしめるものでないとするこゝ、子供の社會訓練はさうしたらよいであらうか。

それには子供と大人の生活の他には是非子供と子供の生活を與へることが何よりも必要である。家庭に於ても兄弟が多い場合には子供同志の生活が營まれる譯であるが、そこでは兄と弟といふ様な上下の關係があつて對等の社會關係にならない。従つてその爲にはさうしてもその様な場所を家庭外に求めなくてはならないが、こゝに幼稚園とか托兒所とか言ふものが兒童の生活訓練にまつて是非必要な場所となつて來る。

併し、前に述べた様に、子供は元來自己中心的であるとするこゝ、子供同志の社會生活とは一體そんなものであらうか。そんな風にして彼等の社會性が發達して行くであらうか。子供の社會的訓練は子供の社會性の發達に副ふてなされねばならないから、彼等の社會性そのものについて最後に簡單に觸れておくこゝにする。

四

ビューラー夫人の研究によるこゝ、子供同志の社會的交渉は可成り早くから始まるといふこゝである。即ち生後五ヶ月位までは一人の幼兒の傍にもう一人の幼兒をつれて來ても兩者の間には何等の交渉が見られないが、六ヶ月の幼兒になるこゝ明かに他の幼兒の存在を意識し、それによつて影響され、何等かの形で社會的交渉が成立する。勿論この様な社會性は極めて原始的なものであつて、果して社會的交渉と言つてよいか問題であるが、こゝに角この頃より次第に子供の生活領域が分化し、擴大されて行くのである。それにともなつて抵抗を感じる事も多くなるのであるが、歩行の自由及び言語活動の開始によつて彼等の生活領域が急激に擴大されるこゝ、それに伴つて抵抗を感じるこゝも著しくなり、その反應として所謂

反抗を示す様になる。ピューラーによるその様な反抗が顯著になるのは満二歳頃であつて、之を第一反抗期を呼んでゐる。この時期は自我意識の最初の現れであつて教育上重要な意味を持つてゐる。

かくして子供の社會的交渉は次第に確固たるものになつて行くが、未だその範圍は極めて少く、始めの中は二人の間だけにしか社會的交渉が成立しない。外國の研究による三三人が一つの集團を作つてお互ひに社會的交渉を持ち得る様になるのは少くも満二歳の中頃を過ぎてからであり、一般に三歳位までは二人群以上の集團が作られることは稀であると言はれてゐる。三歳頃から漸く三人群が多くなり、幼稚園時代の集團形成は二人が一番多いといふ事は多くの人々の研究の一致してゐる所である。

併し、幼稚園のお砂場には五、六人時には十人位が一緒になつて遊んでゐるのではないかと言はれるかも知れない。この事についてアメリカのバーテンといふ人は幼稚園兒童の社會的行動を研究し、このお砂場で多勢一緒になつて遊んでゐる様に見えるのは、實は彼等お互ひに他の子供の傍で遊んでゐるさいふだけで、決して他の子供等と一緒に遊んでゐるのではないと言つてゐる。彼はこの様な現象を特に平行的活動と呼んでゐるが、丁度之と同じ様なことをフランスのピアジェが子供の會話について語つてゐる。即ち、子供の會話には宛も他人と話してゐる様に見えるが、實際に獨り言である場合が非常に多い。會話の本質である問と答とが分化されてゐないで、兒童は他人に話しかけ乍ら、必しも他人によつて返答されることを要求せず、時には自分で答へたりしてゐる。純粹の獨り言と異なる點は他人の存在を必要とするといふ事である。ピアジェはこの様な特殊な會話を特に集團的獨語と名づけてゐるが、本來社會的なものである言葉が子供の世界ではこの様に眞の社會的性情を擔つてゐないといふ點に於て、子供といふものが如何に自己中心的存在であるかといふことを證明したのである。バーテンの平行的活動と言ひ、ピアジェの集團的獨語と言ひ、幼稚園時代の子供の社會的生活の特徴をよく示してゐるものである。

即ち、我々は之等の研究によつて子供等の外見的な社會的の活動が如何に非社會的であるかといふことを理解し得ると思ふ。この非社會性を適當な時期に、適當な方法で社會化して行くことが幼稚園に課せられた一つの重要な教育であると思ふ。唯問題はその適當な方法であつて、下手をすればこの非社會性が反社會的性格へ發展して行くことを知らねばならない。(十三・三十一・三十二)

殘花聚園 (三)

(日本幼児教育資料)

東京女子高等師範學校教授

石川 謙

一三三つの歳に職業えらび

幼い子供時代のがんぜない遊びの中に、一人前に生ひ立つて後のその人の、事業と人柄との樞機を見出さうとする考へ方は、日本にも支那にも——實をいふと西洋にもさうであつたが——遠い昔から存在してゐた。すくなく、一筋道を真直に通つて、子供は大人になるものだし、他愛ない、素朴な心理観が、昔の人々にさうも考へさせた言ふことが出来るかも知れぬ。子供を大人の延長と見、不束な縮圖と見てゐたころの、否さう見させずには措かなかつた所の、ハード・エコノミー時代の社會信仰が、それをさうと思はせるやうに役立つた社會の機構と、その機構から湧いて出た必要さに支持せられたに相違ない此の社會信仰——が、無造作に反映して、さてこそ子供の中に大人を見出さうとさせたものかも知れぬ。が然し、その何れであらうとも、その雙方であらうとも、それ故にこの見方、考

へ方が、全く誤つたものと判断し得る筋目はあるまい。

さいふ理窟を一應思ひ浮べて置いて、幼い子供の中に大人をトはふとした面白い、且適切な例を江戸時代から拾つて見よう。資料は前回の「子供大よせ」と同じやうに、永井堂龜友の『小兒養育氣質』(安永二年刊)に仰いだもので、其の卷之二の中の「第一 何百年も家を續ける百姓の親の目子を見ることの上手法工夫」と題するものゝ一節である。

「唐のためしを聞侍るに、小兒の時六藝の具を各ならべ置て。其子が望む具を取せ見るに、初めに取上し具を見て其道具によりし藝を、六藝何れも學ばす中にも。是を第一に教ゆる時は、其の藝秀で天下に名を上る人まゝ多く有り。六藝は一つは禮、則是に劍術體術一つにこそれり。二つは樂。三つには弓射事。四つは馬に乗る事。五つには物書く事、六つには算術。是を禮樂射御書數の六藝といへり。小兒は直成者ゆへ此道具を並べ置て

見するに。好る物を初めに取上る物なり。たゞへば弓も
 初に取上し子には弓を第一に學ばし。馬具を取上る子に
 は馬をおもささせ。筆を取ば書事を教ふる。是其志
 の一なる所を、學文の外にたしなみの藝能を定むるもか
 や」

書き出しの此の文言は、支那に於いて小兒教育の方針を極
 めるために用ひたさいふ方法を敍した所謂枕詞(和歌に於
 ける)のたくひさも見えるが、實はこれが其の儘原理として
 受取られたものである。何事も支那の故事さいへば、唯そ
 れだけで眞理として値打高く買つてゐた世の慣はしであ
 る。

「今日日本にも是を行ふためし。有所の町主人成しが、出生
 は江州八幡の近くなる在中一二に知れし有徳なる百姓。
 古郡世左衛門さいふもの、惣領息子なるよし。此世左衛
 門田舎に住共常々經學に心をよせ。八歳の年小學を讀。
 十五に成て大學を讀書し。朱子學まつたふ勤め學びて先
 祖の家大切に持かため。奢をはぶき慈仁を専らに暮しけ
 る」

近江八幡に近い在郷に住む豪農、古郡世左衛門から話が始
 まつて、その幼少時代の教養を記してゐるものゝ、世左衛
 門の幼少時代が問題でなく、彼の子供に對する養育法が問
 題なのである。それにしても豪農は言ひ條百姓に相違な

い世左衛門が、恐らく享保、元文の頃を推定しなければな
 らぬ早い時代に於いて、朱子學の流を汲んで『小學』、『大
 學』を學んださいふのは珍らしい例である。或は支那の例を
 そのまゝに日本に適用した不自然を、不自然でないやうに
 繕ふために、經學仕込みの世左衛門さいふここに仕組んだ
 作者の賢い手法だけのものかも知れない。さうすれば百
 姓世左衛門の教養を驚くにも當らないし、餘りにも型通り
 に嵌つてゐる八歳で『小學』、十五歳で『大學』もあるのを不
 思議がるにも及ばない。何れにせよ、こゝでは「昔近江の百
 姓に經學仕込みの世左衛門さいふ者があつた」。さいふ程の
 短い前書き以上の意味はない。

「一人の男子有て兄は三つの年に。鋤鎌十露盤秤書物
 武具なきを座敷に並べ置て、是れを取せ見るに。只十露
 盤秤を取て悦びしが、又弟の三つの年右の道具をなら
 べせ見れば。鋤鎌を取て悦び遊び。折には書物を持
 てはなさず」。

世左衛門に二人の男兒が出来た。この二人が順々に三つに
 なつた年に、將來の職業に因み深い道具を並べ立て、氣
 に向いたのを選び取らせたものである。するに兄の方は十
 露盤秤を悦び、弟は鋤鎌を握つて離さなかつた。商人に
 向く素質の百姓にふさはしい氣象が、はつきり、現はれ
 たものゝ、親の世左衛門は見取つたのである。

「親世左衛門篤き二人の子供が、行を見定置。女房に常々いひ聞せしは。此百姓の家は弟にゆづりて家相續させ。惣領は京へ出して資本銀相應にさらせて何ぞ商をさせる心。弟に家督をゆづり兄を商人にする事。かならず親の依估最負さばし思ふな。何事も家を治め身を修むる一つの工夫なり。さあれば流石世左衛門が女房。あなたの御工夫被成た事に非道のあらふ筈はなし。いか様共思召にまかされよき。おきなしき挨拶。小兒の内より此事毎日二人の子供にいひ聞せ置しゆへ、兄に生れた者は京へ上りて商人に成者さ心得、弟は家元に居て百姓する物さ心得て生長せし故兄弟中も能。弟が十七の年親の家督ゆづり請、兄は廿の年京へ上り幸縁者の商人を頼みて京中に家を求め、江州生れに、偽なき直な人相、近江屋仁兵衛さいふて綿木綿さ蠟燭の店を出し。中半ものなれざわけの知れた年ばひの手代に、丁稚一人抱へて十露盤達者にかせぎけるが、商事に妙のある仁兵衛、三年立やたゝぬに早銀をのばし、商得意大ふんふゑて、又中途者の二歳を二人抱へて丁稚も段々置付て、五年目廿五の年に在所の他家より女房をめさり。

將來の職業を三つの齡から思ひ極められた二人は、それぞれ自分の方向を目指して進むやうに仕向けられ仕立てられた。この方向は、幸にもうまく當つて、各々わが職業にふ

さはしい少年となり、青年となり、成人さなつた。

「早兄は甚之介まで歳は九つ、妹はお幸まで七つに成ける故、夫婦始め在所の親達迄かぎりなき悦、仕合は仁兵衛が太物商の外に、賣てもよしうれるでもよしと思ふて。看板懸た蠟燭の得意多く付、京中の御大名屋敷御留主居方へ、幾方も御出入さなり。ますく店繁昌しけるが。今しつぱりさ銀のある身になりても子供を甘ふ養育す。殊に惣領は男の子故別して嚴敷行儀に養育、衣装方を輕ふ粗服にして、でつち同前に店にて商事を九つの年より見ならはさせ、家内十二三人今召遣の奉公人も行儀かたくまもらせて、折々は生着なご主も家來も同様にしたたべさせ、只慈悲ふびんを加へて遣ひけるゆへ、奉公人共の悦びいかりなし」。

これは世左衛門から三代目、今は商人さなつて成功してゐる惣領息子に出来た男女一人づつの子供についての記事である。親子三代に續く子供時代を描いたのは、我が國さして珍らしい小説であるが、三代目の子供についてはこゝに解説を加へない。(昭和十三年十一月二十九日稿)

幼稚園に於ける健康教育の試み

東京市京橋區鐵砲洲幼稚園 穂 積 篤 子

(一) 幼稚園に於ける健康教育

最近健康教育が到る處に盛んに唱へられる様になりまして、國民及び壯丁の體位低下が問題視されて居る折柄、而も現下の非常時局に際し國民の緊張も一層加へられつゝあります時、第二の國民の教育に當る者として最も意を注がなければならぬ問題であると思ひます。幼稚園に於ける健康教育は、幼稚園令第一條に示されてある目的の様に、將來成人の後、社會及び國家に貢獻し得る力強い人間を作り上げる事にあると思ひます。此の目標を根本精神として健康習慣、健康態度を養成し、現在に於ける心身の健康及び將來に於ける健康の保全、向上を圖るのが主眼點であると思ひます。

(二) 健康なる幼児の目標

健康教育を實施するに當つては、その對象である幼児の健康度に就ての目標を持つ事が肝要であると思ひます。如何なる幼児が健康であるかの目標を定めるのは非常に困難であります、常識的に考へて左の條件の備はつて居る幼

兒を健康兒と認めて居ります。

- (一) 血色よく皮膚が張り切つてゐる
 - (二) 子供らしく、丸々肉付きがよい
 - (三) 明るい晴々とした氣持
 - (四) 活潑で元氣がよい
 - (五) 寝付きの早い事
 - (六) 食物は好嫌なく何でもよく食べる
 - (七) 便通は毎日一回必ずある
 - (八) 發育標準に照して大凡順調である
- 左に參考として幼児發育標準をお目につかけます。
- ## (三) 實施上の方針
- 幼児を健康體に導くには現在の都市に於ける實情から見ても、先づ健康に對する良習慣の養成、體育方面に主力を注がねばならぬ事は明らかであります、本園では健全なる精神は健全なる身體に宿るの眞理に基づき、職員協力一致保育の實踐に努めて居る次第で御座います。
- ## (一) 生活に即する事

幼 兒 發 育 標 準 表											
種 別	區 別	年 齡		3 年		4 年		5 年		6 年	
		性 別		男	女	男	女	男	女	男	女
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
體 重	本 園	10.80	12.85	14.38	13.62	15.70	14.52	18.35	15.95		
	京橋區幼稚園平均	14.60	12.95	14.45	15.30	15.87	14.90	16.94	16.53		
	日本標準(三島博士)	12.40	11.50	13.70	12.90	15.20	14.50	17.80	17.20		
身 長	本 園	88.10	90.20	95.21	92.57	100.42	97.66	104.64	103.00		
	京橋區幼稚園平均	92.27	90.17	95.74	94.75	101.23	99.91	106.28	104.50		
	日本標準(三島博士)	85.40	84.90	91.70	91.00	97.40	96.50	102.80	102.40		
體 增 加 率	本 園			4.30	0.77	1.32	1.50	2.65	1.43		
	京橋區幼稚園平均			0.15	2.35	1.42	6.97	1.07	1.63		
	日本標準(三島博士)			2.30	1.40	1.50	1.60	2.60	2.70		
	獨 逸			2.0	2.0	1.80	1.50	1.50	1.30		

健康教育を申しまして、特に時間を設けて特別の方法を講じて扱ふのではなく、幼児の日常生活に是れを織り込む事。即ち遊びの指導の中に自然的に不斷に考慮しつゝ行ふので御座います。

(三) 發育に應じて實施する事

理智に訴へるべき時期に達して居ない人生の苗床時代の幼児の事にて、外部に對する抵抗力弱く、持續力も少ない故、その年齢發達に應ずべき事は申す迄ありません。

(三) 個性を重んじる事

前述の如く發育上の個人差の甚だしい時代にある幼児には、特に各個人の生育發育狀況、又はその體質に應じて實施すべきであります。

(四) 家庭を協力して行ふ事

幼児生活の大部分は家庭生活に負ふ所が多い故、家庭と幼稚園と密接なる聯絡の下に行ふ事が大切で御座います。

(五) 郷土に即す事

土地の風俗習慣、父兄の職業其他種々の點を考慮すべきで御座います。

(四) 實施方法

以上の様な方針の下に本園では創立以來(昭和六年)特に健康方面に意を注いで参りましたので、その内容の二三を御紹介申上げ御指導を賜はり度く存じます。

年中行事案
 1、健康教育より見た年中行事案本誌第三十八卷第二頁號、を御参照願ひます。
 2、保育内容

次に健康教育の要素である九項目をあげましてその内容
 ご健康教育行事案との關係を掲げて見ます。
 實施方法として右表の中の主なる物を次に摘記致します。

項目	保 育 内 容	行事 <small>(特に健康教育に關係深きもの)</small>
(一) 健康への自覺	<p>(1) 健康十一則</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、早寝早起齒を磨け 2、毎朝一回お通じを 3、食事前には手を洗へ 4、何でも食へよく嚙んで 5、光を浴びてよく遊べ 6、風呂に入つてよく洗へ 7、外で買喰やめませう 8、食へもの飲みもの氣を付けよ 9、寝冷えぬ様腹巻を 10、風邪の豫防に含嗽と摩擦 11、手足をこすつて凍傷防げ <p>(2) 成長と健康 體重測定又は誕生日祝會に端午の節句等に依つて、其の成長を自覺させる。</p> <p>(3) 健康の重要性 成人して國家の爲めに立派な仕事の出来る人は、身體の丈夫である事最も大切である事を、幼兒の最も尊敬する偉人に就ての話等から子供乍らに理解させる。</p> <p>(4) 生活態度と健康 毎日の生活を規則正しく行ふ事に依つて、身體が丈夫になる事を日常生活に結びつけて理解させ共に實行し習慣に迄導く。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1、入園式 2、體重測定(毎月一回) 3、誕生日祝會(毎月一回) 4、兒童愛護週間 5、鐵砲洲稻荷神社參拜 6、端午の節句 7、海軍記念日 8、鐵砲洲稻荷神社鎮守祭 9、定期身體検査 10、健康週間 11、七五三の御祝 12、お正月 13、桃の節句 14、陸軍記念日 15、保育修了式

(三) 榮 養 事 食	(二) 運 動
<p>(1) 食事の作法 食事の作法を正しく理解させ、愉快な楽しい氣持で食事をする精神。 それと同時に常に感謝の念を以て好嫌を云はずに何でも喜んで食する習慣</p> <p>(2) 咀嚼と食休み よく咀嚼する事に依つて身體の成長を大いに助ける事。 その咀嚼した食物が充分に落ち付くまで食後の休憩が必要である事。</p> <p>(3) 間食、買喰 間食は定められた時に食する事。(時間と分量) 尙買喰の弊を知らせる。</p> <p>(4) 榮養と食事 身體を丈夫にする食物、順調な成長をするに必要な食物の事を、童話又は幼児にわかり易いホスター等に依つて理解させ、好嫌しないで何でも喜んで食べる様に導く (偏食矯正)</p> <p>(5) 辨當 好嫌の弊を除き、よく家屋と連絡を取り分量、副食物の種類、食慾の状態に注意</p>	<p>(1) 戶外遊戯 日光を充分浴びる事が身體の健康上最も大切である事を理解させ出来るだけ戶外で元氣に朗かに遊ぶ様導く。</p> <p>(2) 幼児に適した簡単な體操 「ラヂオ」體操其の他</p> <p>(3) 種々の遊戯 唱歌、律動、行進、團體遊戯、自由遊び等。</p> <p>(4) 姿勢 正しい姿勢を種々の遊びの中に指導する。 座した時、立つた時、繪を畫く時、繪本を見る時等。 幼児に適當なる机、腰掛の高さ、其の他。</p> <p>(5) 運動衛生 運動に依つて汗の出た時の始末其の他に就ての指導</p>
<p>1、おべんたう 2、榮養週間 3、肝油服用 4、牛乳飲用 (目下計畫中) 5、鎮守祭 6、冬季臨時保育</p>	<p>1、ラヂオ體操 2、健康體操(主として裸體) 3、乾布摩擦 4、秋季大運動會 5、春季小運動會 6、相撲 7、體育デー 8、雪合戦</p>

<p>装服の潔清(六)</p>	<p>息休と眠睡(五)</p>	<p>然自・氣空・光日(四)</p>	
<p>(1) 身體の清潔 入營、洗顏、洗手、散髮、爪切、耳垢、含嗽</p> <p>(2) 衣服の清潔 下着の清潔、上張、エプロン等に依り常に上着の清潔を保つ事 毛織物の肌着を避ける事。</p> <p>(3) 選境の清潔 室の内外、遊具、玩具の整理、清潔</p> <p>(4) 所持品の清潔 きれいなハンケチ、玩具箱、幼稚園の整理戸棚等</p>	<p>(1) 充分なる睡眠 睡眠の深淺、寢付の早さ遅さ、寢起きの状態をよく調へ良習慣へ導く。</p> <p>(2) 夜更しの害。</p> <p>(3) 早寢早起の良習慣。</p> <p>(4) 疲れた時には充分なる睡眠をとること</p> <p>(5) 午睡に依り恢復を圖ること。</p>	<p>(1) 園外保育 園外散歩 新鮮な空氣を呼吸し、塵埃のない太陽光線に浴する事。 山川、草木蟲魚等の大自然に直接觸れる事が健康増進に大いに益々ある事を理解させる。</p> <p>戶外運動を奨励すると同時に暑さに負けず寒さに堪へられる丈夫な身體になる事を努めさせる。</p> <p>健脚により全身の活力を盛んにし丈夫な身體になる事を意識させ。務めて歩く事を奨励させる。</p> <p>(2) 園外保育の距離と疲勞</p>	<p>(6) 食品と發育 幼兒の發育に適しない食品に對しては或る時期迄避ける事を理解させる。例へば果物に於ては、バナナ、柿、桃等はその發育狀況に依ること。</p>
<p>1、大掃除(年三回) 2、更衣 3、梅雨期</p>	<p>1、夏季臨時保育。 2、暑中の保育時間短縮</p>	<p>1、園外保育(交通機關利用) 年平均八回位</p> <p>2、園外散歩(徒歩) 週平均一回位</p>	

護 養 の 官 器 諸 (七)

(5) 厚着の害

天候に依つて衣類の調節を圖る事。
厚着をすると身體が弱くなる事。

(1) 口及び齒

諸器官の作用を子供のわかる程度に平易に理解させ、その養護に就て指導する。

口腔清潔の仕方

含嗽の仕方(成るべく頬骨に力を入れさせる)

齶齒の手當

食前の含嗽食後の齒ブラシ使用

咀嚼の勵行

就牀前の齒磨

(2) 眼

暗い所で繪を畫いたり、繪本を見たりする事の害。

眼を手等でこすらない事。

顔をよく洗ふ事。

眼病の手當

(3) 耳

耳垢は嫌がらないで取らせる。

耳の中に物を入れぬ事

耳の治療に就て

(4) 鼻

鼻のかみ方

呼吸をする時

鼻の治療に就て

(5) 呼吸器

深呼吸の仕方

(6) 消化器

1、齒「ブラシ」教練

2、齒科診査(春秋二回)

3、齒牙拔去

4、齒牙檢診(年二回)

5、ムシバ豫防デー

6、結核豫防週間

7、視力保存デー

8、傳染病豫防

	<p>(7) よく咀嚼する 皮膚の手當 皮膚を摩擦する事。</p>	
<p>(八) 豫防</p>	<p>幼児は身體の抵抗力弱く病氣に罹り易い。故に疾病の豫防は非常に重要である。堪えず子供の健康狀態に留意(熱の有無元氣のよしあし食欲の程度)し未然に疾病を防ぐ事に注意。</p> <p>(1) 豫防注射は進んで受ける様に導く。 (2) 含嗽の奨励 (3) マスク (4) 百日咳、麻疹等 (5) 寄生蟲の發見、驅除 (6) 消毒 (7) 傳染性の罹患と覺しき時は、速に登園を控へさせる事 (8) 醫者を恐れず進んで治療を受ける事。</p>	<p>1、健康相談 2、寄生蟲検査 3、健康診断 4、新入園日豫備身體検査 5、寄生蟲検査 6、寄生蟲驅除</p>
<p>(九) 安全</p>	<p>(1) 交通と安全 道の歩き方。交通機關。交通安全規則。 (2) 災害と安全 火の用心。危険な場所。 (3) 非常時の訓練 非常時に出遇つた時の態度 長上の人の指圖に依つて行動をする。 團體として避難する時の態度</p>	<p>1、交通安全週間 2、防空演習 3、防火演習</p>
<p>(1) 體重測定</p>	<p>幼児の健康と幼児の體重とは非常に密接な關係があり、體重が基準に準じて増加する事は健康の一證左であります。幼児は總て大きくなる事を喜ぶ者でありますから、毎</p>	<p>月規則的に體重を測定する事に依つて、自分の成長發育に興味を持たせます。又幼児の健康狀態を知る一方法として、幼児の成長を喜び樂しむ心持からも體重測定を行つて居ります。</p>

イ、毎月十日前後、午前九時半より十一時半迄の間に測定する。

ロ、衣類は夏は勿論の事、冬季に於ても室内の温度に留意し全部脱がせる。

ハ、體重計は自動計を用ひ、使用直前に不良を精密に検査する。

ニ、測定の結果、發育の停滞したる者及び著しく減少を示した者は、何等かの故障があるをみて、園醫及び家

昭和 年度

體重測定表	月	日	體重	増	減	備考	姓名	生年 月日	當 歳		
										4月	5月
	4	月	日	斤	斤	斤					
	5	月	日								
	6	月	日								
	7	月	日								
	8	月	日								
	9	月	日								
	10	月	日								
	11	月	日								
	12	月	日								
	1	月	日								
	2	月	日								
	3	月	日								

東京市鐵砲洲幼稚園

庭ミ協力善後策を講じる。

ホ、體重測定表は上圖の様な用紙を用ひる。備考欄には其の月の罹病狀況又は其他參考となるべき事を記載する。

ハ、體重測定統計

本園では昭和九年度より實施して居りますが、左の統計は一ヶ年間を通じて毎月検査日に一回の缺席もなかつた兒、即ち一年間十一回(八月を除く)測定した幼兒のみの統計であります。

(2)健康カレンダー

習慣の養成は一朝一夕には出来ません。健康への習慣も之を反復する事に依つて養はれ、而も其の爲めには相當長期間を要しますから、其の實行は興味的の方法から進めて所期の目的に導かねばならぬと思ひます。幼稚園に於ては勿論の事、家庭に於ける健康生活は最も望ましき事です。此のカレンダーは家庭生活に於て健康法則を徹底的に行はせる一手段として用ひて居ります。之れに依つて家庭及び園兒の狀況を知り其の善後策を講じるのであります。毎月各項目に就て有りの儘記入させ、土曜日毎に幼稚園に持参させます。此の項目は前述の健康教育要素九項目の中から適宜選び順次變更致しますが幼兒の狀況に依り二三月間位繼續して指導をする事になつて居ります。

東京市鐵砲洲幼稚園各月體重測定平均表

年度	昭和9年度		昭和10年度		昭和11年度		昭和12年度		4少年間平均											
	6年	5年	6年	5年	6年	5年	6年	5年	6年	5年										
4月	17.22	16.12	15.18	14.09	16.39	15.40	16.07	14.50	16.65	15.27	15.03	15.01	16.36	16.25	14.21	15.00	16.66	15.76	15.12	14.65
5月	17.35	16.11	15.20	13.95	16.27	15.39	16.05	14.80	17.28	18.69	15.85	15.37	16.55	16.40	15.19	15.13	16.86	15.90	15.58	14.81
6月	17.45	16.31	15.35	14.33	16.55	15.03	16.00	15.10	17.38	15.87	16.00	15.38	16.50	16.32	14.27	15.42	16.97	15.88	15.41	15.06
7月	17.60	16.65	15.60	14.43	16.52	15.64	15.99	14.75	17.33	15.90	15.94	15.39	16.81	16.62	15.32	15.51	17.07	16.20	15.71	15.02
9月	17.80	16.55	15.97	14.63	17.04	16.13	16.75	15.00	17.74	16.20	15.01	15.38	16.92	16.87	15.56	15.54	17.63	16.44	15.82	15.14
10月	18.09	17.03	16.45	15.08	17.08	16.17	17.12	15.20	18.11	16.39	16.45	15.79	17.11	17.05	15.54	15.64	17.60	16.66	16.39	15.43
11月	18.08	16.56	16.32	15.19	17.29	16.19	17.10	15.50	17.94	16.42	16.47	16.11	17.53	17.48	16.08	16.19	17.71	16.76	16.49	15.78
12月	18.32	17.17	16.57	14.90	17.35	16.52	17.27	15.65	18.24	16.64	16.34	16.30	17.67	17.73	16.21	16.41	17.90	17.02	16.60	15.82
1月	18.30	17.21	16.60	15.11	17.43	16.58	17.53	15.80	18.29	15.86	16.75	16.47	17.66	17.67	16.18	16.37	17.92	16.83	16.72	15.94
2月	18.55	17.53	16.83	15.08	17.57	16.71	17.20	15.85	18.33	16.92	16.83	16.44	17.70	17.73	16.29	16.44	18.04	17.22	16.79	15.95
3月	18.64	17.61	16.70	15.20	17.77	16.96	17.52	16.00	18.65	17.03	16.85	16.56	17.80	17.87	16.44	16.51	18.22	17.62	16.88	16.07
一年間 增加體重	1.42	1.49	0.52	1.11	1.38	1.56	1.45	1.50	2.00	1.78	1.82	1.55	1.44	1.62	2.23	1.51	1.56	1.86	1.76	1.42
一ヶ月本 均增加量	0.12	0.12	0.04	0.09	0.12	0.13	0.12	0.12	0.17	0.15	0.15	0.13	0.12	0.13	0.19	0.13	0.13	0.16	0.15	0.12

健康カレンダー例(用紙は八ツ切費用紙 三十一日間使用)

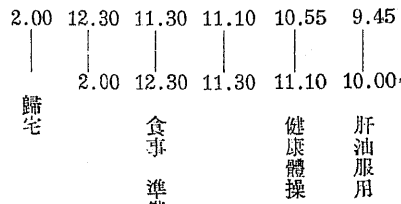
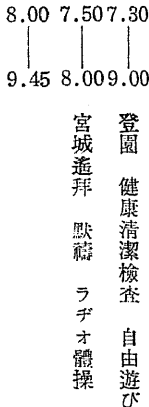
日	曜	起	就	休	食	書	食	夕	入	便	小	遺	備
時	間	時	間	品	名	品	名	品	名	品	名	品	名
3													
2													
1													

之は一例であります。幼児のお辨當調査の結果、榮養價が非常に低いので家庭に於ける獻立を知る爲めに此の項目を用ひました。この實際例は紙面の都合上省きますが、此の結果を翌月統計表にして父兄に配布し、發育期にある幼児の榮養に對する關心を高める一助を致しました。

(3) 戶外遊戯

中央氣象臺の調査に依る三ヶ年間の晴天日は僅か百五十餘日であります。この百五十餘日は實に貴重な日で、戶外に出て充分に日光を満喫すべきであります。

本園では一日の保育時間中二時間乃至三時間を戶外に依る保育に當てゝ居りますが、一日の保育過程を御参考迄に掲げて見ます。



之は一例であります。小學校附設の幼稚園であります。本園は、授業時間と休憩時間の關係で幼児の自然の流れに依る保育は却々困難であります。本表の一日四回の空欄の時間が自由遊びであり、指導に依る遊びであり、偶發時の取扱の時間で、出來得る限り戶外を利用してゐるのでございます。毎年豫め豫定案は作製致しますが、其の形式通り幼児を強ひる事なく時と場合に依り適當に取扱ふのでございます。

(4) 健康體操

鐵砲洲小學校に於ける體育の一施設で、毎日午前十時五十分より十一時十分迄の十五分間裸體體操と乾布摩擦を

致しますが、幼稚園も之に参加して居ります。此の時間はレコードに依る音楽に合せて、(1)行進(2)ラヂオ體操又は建國體操(3)乾布摩擦を行ふので御さいます。が年少組は餘り強制せず、努めて薄着で行ふ様、晴天の日は十月末頃迄裸體を奨励して居ります。體操の後の乾布摩擦は、皮膚の抵抗力を強め、直接日光に當る事に依つて全身的に健康體なる素地を作るのに効果があるを信じて行つて居ります。

(5)園外保育

本園の最も重視して居る保育の一で、主として交通機關を利用して郊外に進出するのです。年十回位行ひますが、距離は十軒前後、經費は一人一回十四錢宛、區費二回分支出され、他は保護者會の經常費より支出致します。

園外保育地

大泉野遊地	豐島園
大宮八幡神社	上野恩賜公園動物園
日比谷公園	歩兵第一聯隊
有栖川宮記念公園	向ヶ丘遊園地
井之頭公園	二子玉川
明治神宮	明治神宮外苑
代々木練兵場	日吉臺

(6)園外散步

主として健脚が目的で、天候のよい日には努めて園外に出かけ歩く事を奨励致しますが、此の場合幼児の年齢に適した距離を考慮する事が非常に重要であります(園外保育の場合も同様)現在行つて居る場所では、月島四號地の二四軒餘が最も多く、乗船區間〇・二軒を入れて往路約五十分位かゝりますが、年長組には好適の地として年に數回出かけます。

園外散步地

二重橋 日比谷公園 月島四號地 西本願寺
 築地公園 永代橋方面 阪本公園 明石町河岸
 越前堀公園 京橋公園 鐵砲洲稻荷神社 鐵砲洲公園

(7)夏季臨時保育

近年幼児の夏季施設に就て種々論議されて居りますが、其の是非は兎も角として創立以來毎年實施して好成绩を擧げて居りますので御紹介致します。此の施設は休暇中の生活指導の一部で、幼児の健康は大自然に接する事が最も適して居り、又必要でありますから、本園では休暇中は努めて田舎に於ける自然を友とした生活を奨励して居ります。併し保護者の大部分は各自の職業に多忙で休暇中でも子女の教育に専念する餘裕を持つものがなく殆ど放任状態であります。又交通が非常に頻繁で自由に遊べる場所もなく、

四十日の長い間不自然な遊びに耽けるものが非常に多く、其の害状は非常に悲惨なものであります。是等の幼児の爲めに幼稚園を開放し、極めて自由な遊びの中に價値生活を營ませ様とするもので、保護者會の主催で行つて居ります。

イ、收容幼児 定員五十名で在園中の希望者を参加させて居りますが、本年は時局の影響を受けた故か八十餘名の多數に上りました。

ロ、期間 八月一日より三週間

ハ、時間 午前八時より午後三時

ニ、保育方法 平常と大差はありませんが、努めて涼しく遊ばせる事が主眼であります。本園は小學校附設幼稚園であり、種々時間的に不便が多く家庭に居るよりは廣々として居るが、幼稚園的に考へて餘り伸々とした遊びを充分にする事が困難な場合が多々あります。休暇中は小學校兒童が居ない爲めに思ふ存分自分の好きな遊びに没頭して時間の経つのも知らずに過す事が多く、随つて危険を伴ふ事もなく家庭的に遊べる事が特長で御ざいます。保母も幼児も、あちらこちらと神経を悩ます事なく、願くば一年中斯くあり度きものと毎年感じる事で御ざいます。

ホ、施設事項

(一) シャワーバスの利用 (二) 園庭で水遊び等 (三) 園外保

育(週一回)金澤海岸、井之頭公園、日比谷公園プール等(4) 午睡 保育時間が長いので、午睡を行つて居りますが、之は幼児達にきりまして非常に楽しんでみな行事の一端で御ざいます。

寢具 枕、寢衣、掛布圍 家庭より持参させます。

寢室 小學校の二階の二室を借用して居ります。兒童用二人掛の机一ヶを一人分の寢臺とし、足部に當る方に兒童用の椅子一ヶを附屬させ寢臺の上にする臺を、衣類を置く場所を兼ねさせます。寢臺には保護者會費で購入した毛布二枚を敷布を敷きますが、敷布は大人用一枚に幼児五名寢る事になつて居ります。寢臺及び敷布には全部番號を付けて置き、一方家庭にも幼児の番號を知らせ寢具全部を氏名を番號を附けさせ、期間中幼児が一定の場所に午睡する事になつて居ります。又廊下の帽子掛にも番號を附け置き、午睡後は幼児自身掛布圍を寢衣の始末を致させます。

寢室の設備は大體以上ですが、各自午睡の仕度、後始末等、保母が殆ど手を貸さずに自治的に習慣づけて居ります。睡眠時間は一時間半から二時間位とし、午前中は相當運動量のある遊びをして自然の眠りに入る様にして居ります。夜の睡眠の妨げにならぬ様にして居ります。幼児は仕度ができますと静かなレコード等に依り眠りに入らせる様にして居りますが大半は一時間半位熟睡し大體に於て良好で御

ざいます。

へ、費用＝費用一人金壹圓也保護者負擔。この大半は園外保育費に當て、居ります。今年は參拾錢餘分に徴收し、牛乳飲用を試みて見ましたが、榮養補給として健康上にもよい影響を與へて居りますが、今後は全園兒に及ぼすべく計畫中でございます。

ト、保育指導者＝園長保母一日二名宛(外に使丁)チ、日々の保育豫定

7.30	登園健康検査、體重測定、自由遊び
8.30	戸外の涼しき所で、團體遊戲、水遊び、お話し
11.30	晝食準備、食事、後片付
12.10	午睡の仕度、手、足、洗ひ其の他
12.20	午睡
2.20	口すゝぎ、顔洗ひ、汗知らすつけ
2.30	お入つ(牛乳とビスケット)
3.00	歸宅

り、夏季休暇中行事豫定表

月日

七、二〇	第一學期終業式	八、一六	金澤海岸へ遠足
七、二一	ラヂオ體操開會式	八、一八	午後一時半より母の會
七、二六	晝會	八、一九	日比谷公園プール行
八、一	夏季臨時保育開園式	八、二〇	ラヂオ體操閉會式
八、五	日比谷公園プール行	八、二一	夏季臨時保育開園式
八、一〇	映畫會	九、一	第二學期始業式
六、三	夏季生活展覽會	九、三	夏季生活展覽會

以上夏季臨時保育の大略であります。酷暑の中の三週間は相當以上の力を要します。幸にして本園では健康に恵まれた同僚が多い爲め毎年繼續して行つて居り、本年は第八回目であります。結果として左記の効果を擧げて居ります。

- 1、各〇・三疋乃至〇・五疋體重が増加して居る。
- 2、園兒が毎日規則正しく愉快な生活が出来る。
- 3、父兄の理解者が多く、毎年繼續を希望する者多數ある。

4、規則的の午睡に依り夜の睡眠を妨げらるゝ事なく充分の睡眠と休養をこり得らる。

5、罹病率が少ない。參加兒の方が休暇中及び休暇後の健康狀況が良好である。

(8) 冬季臨時保育

趣旨は夏季保育と同様であります。年末に際し家庭の繁忙さを補助する意味で開放して居ります。

昭和 年度		月日	曜	天候	温度	健康検査	体重	午睡	状況	備考	午睡状況記入例 ○缺 ●出席 ●熟睡 ●前半夜熟睡 ●後半熟睡
夏季臨時保育生活カード											
氏名	組										
	昭和										
	年月日生										

- 1、期間 四日間(二十八日乃至三十一日)
2、時間 午前九時—午後二時

3、收容幼兒 在園中の希望者全員参加させますが、毎年十餘名位を除き殆ど参加す

4、保育指導者 園長、保姆一日三名宛(外に使丁)

5、保育概要 特別施設として餅搗、副食物給與、お餅搗は日本古來よりの獨特の行事であります。東京では一般的に餘り行はれてなく、幼稚園でも平常は種々の點で行ひ難いので冬季臨時保育中に取り入れて行つて居ります。

副食物給與は僅か四日間の事にて、此の期間中に効果を擧げる事は困難であります。年末に於ける家庭の煩雜さを幾分でも救ひ、又榮養に就ての注意を幾分でも喚起する事が出来れば存じます。主食は設備の點で實行に至らず、家庭より持參致させます。

(9) 健康清潔検査

毎朝園兒の登園を迎へた時に其の健康狀況を検査して、傳染病の早期發見に努め、又良習慣を養ふ爲めに行つて居ります。健康狀態に異常のある者、清潔狀況の餘り好ましくない幼兒は其の都度記録して注意を促がし、全體的には一ヶ月二回宛宛記録して進歩の度を調査致します。

検査事項

顔・手・頸等の清潔さ、 齒を磨いたか 爪がきれいか
ハンカチがきれいか 上着・下着の清潔さ。

(10) 家庭との聯絡

東京私立幼稚聯盟第一回總會

昭和十三年十一月二十三日 午後正一時より、神田一ツ橋教育會館に於て左記の様なプランの下に東京私立幼稚聯盟第一回の總會が開かれました。

順序

一、開會の辭 司會 増子 懷永氏

二、國歌の唱 司祭 神田三崎神社執行

三、宮城遙拜 和 田 實氏

四、國威宣揚祈願 和 田 實氏

五、挨拶 和 田 實氏

六、勤勞者表彰 和 田 實氏

七、祝辭・祝電 和 田 實氏

八、會務報告 山内 勇仙氏

一、會議 議案

二、長推選(議案) 聖美幼稚園

1、長期建設に對應する適切なる保育如何 (提案) 聖美幼稚園

2、昭和十五年を期し東京私立幼稚聯盟主催の下に (提案) 龜戸幼稚園

3、全國私立幼稚園大會開催の件 (提案) 龜戸幼稚園

4、幼兒教育を一般社會に普及する方策如何 (提案) 吉野幼稚園

5、各幼稚園長が少くとも月一回 心をくみ相會して懇談 (提案) 東洋幼稚園分園

三、研究發表 大和郷幼稚園

1、自由畫の讀み方 東洋幼稚園分園

2、日の丸の讀み方 目白幼稚園

3、時局に對する幼兒の思想 野村三宅萬介氏

1、狂言不關座頭 野村三宅萬介氏

2、小舞海邊下り 野村三宅萬介氏

3、映畫「五人の斥候兵」 十文字こと氏寄贈

四、閉會の辭 小 林 宗 作 氏

1、母の會に子供を育てる事は母親の最も尊く且つ最も大きな仕事であつて、母親は子供の爲めに、子供が小さければ小さい様に、子供が多ければその一人くゝに就て異つた苦勞を致します。併し其れは親だけが味ひ得る樂しみさ幸福さがある譯で、母親は子女の教育に就て充分研究を積む必要が御ざいます。其の意味から毎月十八日を定日として午後一時半から四時まで、熱心な母親達が集り研究を續けて居ります。會費は出席に限り十錢、講演、講習、座談研究会に併せて、學校及び幼稚園からも現状及び將來の希望を話し、又擔任の懇談等も致します。

2、幼稚園日より行事豫定、躰方に關する事季節的の衛生上の注意、流行病の注意等又は保育上の過去及び現状、將來への希望等凡ゆる方面に就て、幼稚園より家庭に協力を仰ぐべき事項を記します。毎月一回の豫定で印刷配布致します(本誌第三十八卷第二號十七頁參照)

以上本園に於ける健康教育の一部分を述べましたが、研究を始めてより日なほ淺く、不備の點、或は今後研究を要する點が多々ある事存じます。併し幼兒の現在に於ける健康状態を見て數字的に表はします多くの材料はまだ得られませんが、徐々に向上しつゝある事を種々の方面より認めまして、此の仕事を繼續する事に依つて必ず健康なる身體を作り得るに信じて居ります。(昭和十三年十月記)

可愛い、慰問

附屬幼稚園

幼児こよみは豫期以上の多大な御賛向をいたゞき、注文も印刷も追加又追加と言ふ有様で唯今はもう手元に無くなつてしまひました。

當方の附屬幼稚園では第三陸軍病院へお届け致しました。第一、第二陸軍病院へも大部の部数が届けられた様でございます。地方の病院へもボツ／＼参つた様でございますから、一人残らず云ふわけにはゆかなかつたでせうが、大勢の傷痍軍人の方々をお慰めする事が出来たことよよろこんで居ります。

當附屬幼稚園でカレンダーに添へて傷痍軍人の方々にさし上げたごきもの手紙の中の三四をこゝに拾つて見ました。

ヘイタイサン オナガダタイヘンデスネ ハヤクヨクナツ
テセンチデオテガラオタテナサイ コナイダオイモホリチ
シマシタ ボクハタクサントリマシタ ボクハゲンキデス

ヘイタイサンオダイジニ

オナガチナサツタヘイタイサンハヤクヨクナホツテクダ
サイ ボクハ ヨウチエンデ センソウゴツコチスルヨ
ボクハ オホキクナツタラヘイタイサンニナルヨ

ヘイタイサン オケガハナホリマシタカ マイニチセン
ソガアツテタイヘンデスネ ヘイタイサンハシナナイデク
ザサイ ハタクシハシンバイデス コノアヒダコビナタジ
ンジャニオイノリチシテキマシタカラ シナナイデクダサ
イオクニノタメニハタライテクダサイ

ヘイタイサン ゴビヨキノヘイタイサンカレンダーチサ
シアゲマス コレハシヨウワ十四ネンノカレンダーデス
コレハライネンノカレンダーデス ライネンハワタクシハ
シヨウガクコウヘユキマス ワタクシノオタンジャウビハ
十一ガツ二十二チデス ヘイタイサンノオタンジヨウビ
ハハルデスカ ナツデスカ デハサヨウナラ

ヘイタイサンカズコハイツモオウチデオバアチヤマノオ
カタヲタイテイマス オウチデハネエヤガイナイノデア
サハイソガシイデスウチデハサザンカガサイテイマスワタ
クシハイツモゲンキデイマスヘイタイサンオダイジニ

ヘイタイサン オゲンキデスカ ワタクシモゲンキデス
ヘイタイサンハ オケガワナオリマシタカ モウヅツトセ
ンカラ オトウサマガリウマチデワタクシハイツモオカア
サントキマス

ヘイタイサンワタクシハマゴトヤヂヤングルオニチシ
テトテモオモシロウゴザイマスオウチヘカヘルトウチノボ
オヤガカケテワタクシノカラダオツカマリマスデワサヨウ
ナラ

ヘイタイサン アタクシワセツツシニイキマシタ ソオ
シテオフネニ ノツテ アンビマシタソオシテ オデチャ
マワ ヒコオキノケンキユデ オナクナリニナリマシタ
ソオシテオトウサマガセンソニイツテイラツシヤイマス

ヘイタイサン チケガハイカガデスカボクノオトオサマ
ノシツテイルヒトニサガワサントユウヒトガイマスソレダ
カラボクモノノヒトノマネテシテ ツミキデ ヒコオキチ
ツクツテアソンデイマス

ヘイタイサンオケガハキカバデスカ ワタクシモゲンキ
デス ヘイタイサンガ ハタライテキテクダサルトロタク
シモタスカリマス

關西保育大會建議案

關西代表十三名上京、去る十月十七日岡山市に於て開催せられた關西保育聯合大會に於ける建議案及び教育審
議會整理委員會案として新聞紙上掲載の幼稚園に關する四項目についての陳情書を提げ、文部大臣その他關係當
局諸方面に面會陳情せられた。

その際の印刷物及該委員の案になる幼稚園令改正希望案は左の通りといふことである。

○建 議

昭和十三年十月十七日岡山市ニ於テ第四十三回關西聯合保育會ヲ開催致候處各地ヨリ幼稚園長保母並ニ幼兒教育關係者等壹千四百餘名參集シ慎重審議ノ結果左記事項決議仕候ニ付何卒決議ノ主旨ヲ御採擇相成様特別ノ御詮議賜リ度此段及建議候也

昭和十三年十一月十八日

關西聯合保育會代表

岡山市深抵幼稚園内
吉備保育會 國富友次郎
文部大臣 荒木貞夫 殿

記

第一、從來建議セシ左記事項ヲ速ニ實現セラレタキコト

一、幼稚園保母ノ教養程度ヲ小學校本科正教員ト同等以上タラシムルコト

二、幼稚園長及保母ヲ視學等ニ任用スルノ途ヲ開クコト

三、幼稚園長及保母ノ若干數ヲ奏任待遇トナスノ途ヲ開クコト

四、幼稚園保母ノ月俸額ヲ小學校本科正教員ニ準ゼシム

ルコト

五、幼稚園長及保母ニ對シ年功加俸ヲ給スルコト

六、幼稚園教育ヲ義務制トスルコト

第二、教育審議會委員會學制改革案中幼稚園ニ關スル事項

ニ付左記ノ通り實現セラレタキコト

一、幼稚園ノ設置ニツイテ一層獎勵ヲ加フルト共ニ特別必要アル場合ハ簡易ナル幼稚園ノ施設ヲ認メルコト

A、「獎勵ヲ加ヘル」

1、市町村ヲシテ必ズ幼稚園ヲ設置セシメ義務制トスルコト

2、公立幼稚園ニ對シ國庫補助ヲナスコト

3、各師範學校ニハ必ズ幼稚園ヲ附設スルコト

4、教化團體及其ノ他私人ノ本令ニヨル幼稚園設立ヲ獎勵スルコト

B、「簡易ナル幼稚園ノ施設」

1、施設ノ簡易ニツイテハ保育内容ヲ低下セシメザルコト

2、私立幼稚園ノ設置ニハ設立者ノ人格ヲ重ンジ苟モ營利ニ互ルガ如キ嫌ナカラシムルコト

二、幼児ノ保育ニツイテハ特ニ其ノ保健竝ニ躰ヲ重視シテ之ガ刷新ヲ計ルコト

A、「保健」

1、専任ノ園醫竝ニ衛生婦ヲ設クルコト

2、室外保育竝ニ郊外進出ヲ一層盛ニシ以テ自然ニ親シ

マシムルコト

3、遊園ノ廣サハ一人一坪以下トナラザルコト

4、市町村ニハ必ズ乳幼児健康相談所ヲ設ケ發育、榮養

竝ニ疾病ニ留意セシムルコト

B、「躰」

1、皇道精神ノ涵養ニ努メルコト

2、善良ナル性情ヲ涵養シ情操ノ陶冶ヲ計ルコト

3、幼児ノ純真ヲ害フコトナク國民的訓練ノ基礎ヲ養フ

コト

4、保健衛生生活ノ指導ヲナスコト

三、保姆ニツイテハ其ノ養成機關ノ整備擴充ニツムルト

共ニ其ノ待遇改善ヲ計ルコト

A、「保姆養成機關ノ擴充」

1、文部省ニ保育専任ノ督學官ヲ置キ斯道ノ向上發達ヲ

計ルコト

2、各府縣ニ女子師範學校ト同等以上ノ保姆養成機關ヲ

設クルコト

3、女子高等師範學校ニ保育料ヲ設クルコト

4、幼稚園令施行規則第十條第二號以下ヲ削除スルコト

B、「待遇改善」

1、保姆ノ待遇ヲ小學校本科正教員ト同等以上タラシム

ルコト

イ、保姆ノ月俸額ヲ小學校本科正教員ニ準ゼシムルコト

ト

ロ、園長及保姆ニ年功加俸ヲ給スルコト

2、私立幼稚園ノ保姆ノ待遇ヲ公立幼稚園保姆ニ準ゼシ

ムルコト

3、幼稚園長及保姆ノ若干數ヲ委任待遇トナスノ途ヲ開

クコト

4、幼稚園ト家庭トノ關係ヲ一層緊密ナラシムルト共ニ

之ニヨリ家庭教育ノ改善ニ裨益セシメ併セテ幼稚園ノ

社會教育的機能ノ發揮ニ努メシムルコト 以上

○現行幼稚園令並ニ施行規則ニツキ括弧修正ノ通り御改正相成度候

幼稚園令

新たに加ふる分』
削除する分()

第一條 幼稚園ハ『皇道精神ニ基キ』幼児ヲ保育シテ其ノ心身ヲ健全ニ發達セシメ善良ナル性情ヲ涵養シ家庭教育ヲ補フヲ以テ目的トス

第二條 市町村、市町村學校組合及町村學校組合ハ幼稚園

ヲ設置ス(ルコトヲ得)『ベシ』

第六條 幼稚園ニ入園スルコトヲ得ルモノハ(三)『四』歳ヨ

リ尋常小學校就學ノ初期ニ達スル迄ノ幼児トス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ(三)

『四』歳未滿ノ幼児ヲ入園セシムルコトヲ得

第十一條 保母免許狀ハ地方長官ニ於テ保母檢定ニ合格シ

タル者ニ之ヲ授與シ全國ニ通ジテ有效トス

保母檢定ハ小學校教員『幼稚園保母』檢定委員ニ於テ之ヲ

行フ

幼稚園令施行規則

第一條 幼稚園ニ於テハ幼稚園令第一條ノ旨趣ヲ遵守シテ幼児ヲ保育スベシ幼児ノ保育ハ其ノ心身發達ノ程度ニ副

ハシムベク其ノ會得シ難キ事項ヲ授ケ又ハ過度ノ業ヲ爲サシムルコトヲ得ス。

常ニ幼児ノ心情及行儀ニ注意シテ之ヲ正シクセシメ又常ニ善良ナル事例ヲ示シテ之ニ倣ハシムルコトヲ務ムヘシ

『特ニ幼児ノ保健衛生ニ留意シ養護的訓練ヲナスヘシ』

第二條 幼稚園ノ保育項目ハ遊戲、唱歌、觀察、談話、手

技等ト(ス)『シ幼児ノ生活ニ基キ努メテ綜合的タルヘシ』

第三條 幼稚園ノ幼児數ハ百二十人以下トス但シ特別ノ事

情アルトキハ約二百五十人マテニ増スコトヲ得

第七條 保母免許狀ヲ有スル者ヲ得難キ場合ニ於テハ之ヲ

有セザル女子ヲ以テ保母ニ代用スルコトヲ得但シ保母免

許狀ヲ有セザル者ノ數保母免許狀ヲ有スル者ノ(二)『三』

分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第十條 左ノ各號ノ一二該當スル者ハ保母ノ無試驗檢定ヲ

受クルコトヲ得

一、小學校ノ本科正教員ノ免許狀ヲ有スル者

(一) 高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者若ハ一般ノ專門學校入學ニ關シ無試驗檢定ヲ受クル資格ヲ有スル者ニシテ其ノ合格又ハ卒業後一年以上幼稚園ノ保育ニ從事シタル者)

(二)、『二』專門學校入學資格ヲ以テ入學資格トスル學校ニ於テ(一)、『二』一年以上幼児ノ保育ニ適スル教育ヲ受ケテ卒業シタル者

(四) 従前ノ規定ニ依リ保姆免許狀ヲ取得シタル者ニシテ三年以上幼稚園ニ於テ幼児ノ保育ニ從事シタル者)

(五) 其ノ他地方長官ニ於テ特ニ適當ト認タル者)

第十一條 保姆ノ試驗檢定ハ左ノ科目ニ就キ尋常小學校本科正教員ノ試驗檢定ノ程度ニ準シ之ヲ行フ

修身 道德ノ要旨
教育 教育、兒童心理、教授法及管理法ノ大要
保育 育兒法、『幼兒衛生』、保育法、保育項目ニ關スル來項ノ實際

國語 普通文及小學校教科用ノ講讀、作文、習字
算術 整數、分數、小數、諸等數、歩合算、比例

歷史 國史ノ大要
地理 地理ノ大要
圖畫 自在畫

手工 手工ノ大要

音樂、唱歌、樂器使用法
體操 體操、遊戲及競技

裁縫 通常ノ衣類ノ裁テ方、縫ヒ方、繕ヒ方

第十六條 前二條ノ場合ニ於テ園長ハ學校長ニ、保姆ハ正教員ニ、代用保姆ハ代用教員ニ準ス(但シ月俸額ニ付テハ園長ハ本科正教員ニ、保姆ハ專科正教員ニ準ス)

第十八條 幼稚園令第六條但書ノ規定ニ依リ(三)『四』歲未満ノ幼兒ヲ入園セシメルトキハ之ニ要スル施設ノ概要ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條 幼稚園ノ設備ハ左ノ各號ノ規定ニ依ルヘシ

一、敷地ハ道德上及衛生上害ナキ所タルコト

二、建物ハナルヘク平家造トシ組數ニ應ズル保育室、遊戲室其ノ他必要ナル諸室ヲ備フルコト

三、保育室ノ大サハ幼兒(五)『三』人ニ付一坪ヨリ小ナラザルコト

四、遊園ハ幼兒一人ニ付(ナルヘク)一坪以上ノ割合ヲ以テ設クルコト

五、保育用具、『運動用具』、玩具、繪畫、樂器、黑板、机、腰掛、砂場等ヲ備ヘ其ノ他『保健』衛生上ノ設備ヲ爲スコト

(三)『四』歲未滿ノ幼兒ヲ入園セシムルモノニ在リテハ前項ノ外之ニ要スル相當ノ設備ヲナスヘシ

ハイ デイ

(第九回)

津田芳雄譯

あくる朝、セバスチャンが先生を勉強部屋へ案内して出て来るミ、すぐ又、玄關のベルがけた、ましく鳴つた。

「あんなベルの鳴らし方をする人は、ゼーゼマン様の外にはない。きつこ旦那様が、不意にお歸りになつたんだらう」

さう思ひながら、セバスチャンは急いで戸を開けて見るミ、目の前に、汚いぼろぼろの着物を着た小さな男の子が、手風琴を背負つて立つてゐるではないか。

「なんだつてあんな生意氣なベルの鳴らし方をするんだ。この家に何の用だね」

セバスチャンは怒鳴りつけた。

「クララに逢ひたいんだよ」

「この汚らしいさんちき野郎、『クララ』だなんて、クララ様』つて云へんのか。そのクララ様に

一體何の用があるんだ」

「十錢貸しがあるんだよ」

「おやおや、氣でも違つたんだな。それにしても、さうしてこのお嬢さまのお名前を知つてるんだ」

「行きの道を教へてやつたから五錢、かへりに送つて来てやつたから五錢、貸しがあるんだよ」

「嘘もいゝ加減にしろ。お嬢さまは外へなぞお出になることはないんだ。お歩きさへ出来ないんだぞ。さあ、さつさこ——つまみ出されないうちに歸れ、歸れ」

しかし男の子には、そんな脅しは利かなかつた。彼はきつぱりさ、

「だけ僕たしかに昨日通りで逢つたんだもの。うそぢやないよ、おぢさん。みんな子か云つて見やうか。黒いちぢれつ毛のおかつばでね、黒い眼

をして海老茶の着物を着て、言葉が少うし僕達と違つてゐたよ。」

「は、はあ、さては又あの山出しのお嬢さんが何かいたづらをおつ始めたんだな」

セバスチャンはさう思つてをかしくなつたが、やがて男の子を中に入れて云ひ渡した。

「よし、わかつた。こゝちらへ来て、『おはいり』云ふまで戸の外で待つておいで。這入つたらすぐにその手風琴を鳴らすんだぞ。お嬢さまは音楽がさてもお好きだからね」

セバスチャンは勉強部屋へ行つて、

「お嬢さまに是非お目にかゝりたいと申して、子供が參つて居ります」

クララは珍らしがつて、先生におねだりした。

「ねえ先生、すぐお通ししなくちやいけませんわね。そんなにわたしに逢ひたがつてゐるお客様なんですよ」

男の子はもう部屋に這入つて來てゐた。そして、セバスチャンの指圖通り、いきなり手風琴を鳴らし始めた。隣の食堂でお仕事をしてゐたロッテンマイアさんは、この時ふと聞き耳を立て、あの音

は往來から聞えて來るのかしら、それにしては近すぎるやうだけれど、まさか勉強部屋で手風琴を鳴らす筈はないし、だけごたしかに——ロッテンマイアさんは廣い食堂を突切つて大急ぎで勉強部屋との境の戸を開けて見て、自分の眼を信じるこそが出来なかつた。部屋のまん中には、汚いぼろを着た子供が力みかへつて、こゝを先途手風琴を鳴らして居り、先生は何か云つてゐるらしいのだが聲が手風琴に消されて聞えない。クララこハイディは面白さうにその音楽に聴きされてゐるのだつた。

「出てお行き、今すぐ出てお行き！」

ロッテンマイアさんは金切聲をあげた。だがその聲は手風琴に吞まれてしまつたので、もごかしがつて子供に飛びかゝつて行かうとした途端、何やら氣味のわるい黒いものが、のろ／＼と足許に這つて來た——それは龜だつた。ロッテンマイアさんは顔色を變へて飛び上り、聲を限りにセバスチャンを呼び立てた。

手風琴弾きの子供は、その聲にびつくりして、あわてて弾き止めた。セバスチャンはさつきから笑ひ轉げながらこの様子を戸のかげからのぞいて

るのだつた。

「子供も籠も、みんなつまみ出しておくれ。早く、すぐに！」

ロッテンマイアさんは、ぐつたりミ椅子にかけ、息も切れなくに命令した。

セバスチャンに引張られて行く時、子供は素早く籠を拾ひ上げて行つた。門の外に送り出す時、セバスチャンは子供の手に銅貨を握らせた。

「ほら、お嬢さまの借りの四錢を返すよ。それからこれは風琴弾きのお駄賃にもう四錢。上手に弾けたね」

やつミ騒ぎがおさまつて、勉強部屋では又お稽古が始まつた。ロッテンマイアさんは勉強部屋に陣取つて、又もやこの様なさわぎを起さない様に、ぢつと見張りをしてゐた。ミころがしばらくするに、又セバスチャンが現はれて、誰かがすぐにクララ様に差し上げてくれさ云つて、大きな籠を持つて来たさ取り次いだ。

「まあ、あたしに？」クララはびつくりして、好奇の瞳を輝かせながら云つた。「すぐに持つて来て頂戴。早く見たいわ」

セバスチャンは蓋をした大きな籠を持つて來

て、引き退つた。

「籠よりも、まづおけいこをすませませう」ロッテンマイアさんが云つた。

クララは中に何が這入つてゐるのか見當が付かないので、早く見たくて、そちらの方ばかり見てゐた。文法を習つてゐる最中に、たうさうたまり兼ねて、

「先生、一べんだけ、ちよつこのぞいて見ちやいけません？」

ミたつねた。

「さうです、ね、一面から考へますさ、お許してもいいです。しかし又、他の一面から考へますさ、お許しするところは出来ません。お許してもよいと申しますのは、あなたが籠の方へばかり氣を取られてゐられる様では、到底——」

先生はおもむろに云ひ出したが、その演説が、まだ終らないうちに、突然籠の蓋がゆるんで、一匹、二匹、三匹、それから又二匹、又ちよろ／＼と、幾つもの仔猫が轉がり出て來て、床の上をあちこちとんでに駆けまはり、目にも止まらぬ早さで、まるで部屋中が仔猫で埋まつてしまつた様な感じになつた。ニャオ、ニャオと啼き立て

て、引つ掻きつこ、押し合ひつこをしながら、先生の靴をミビ越したり、ズボンを噛んだり、ロツテンマイアさんの着物に這ひ上つたり。足の上を轉がりまわつたり、クララの寢臺に跳び上つたり、それはく大變なさわぎになつた。クララは大悦びで、さつきから叫びつゞけてゐた。

「かあいゝわね。なんてきれいなんでせう。ハイデイ、ほら、これごらん、あら、あら、向ふのあれ、あれ見てごらんなさい！」

ハイデイはうれしがつて、あつちの隅からこつちの隅へミ、部屋中を追つかけまわした。先生は困り果ててテーブルのそばに立つたまゝ、氣味わるさうに、かはりばんこに足を持ち上げては、足許をちよろしく這ひまわる仔猫から逃げてゐた。ロツテンマイアさんは聲も出ない程びつくりして、一步でも椅子を離れては、恐ろしい仔猫が全部一度に飛びかゝつて來ては大變ミ、椅子にしがみついたまゝ聲をふりしぼつて叫んだ。

「ティネットテ！ ティネットテ！ セバスチャン！ セバスチャン！」

二人は飛んで來て、やつミ仔猫を拾ひ集め、籠の中に入れて、先の二匹の所へ持つて行つて一緒

に置いた。

今日もまた、誰も欠伸をしないですんだ。

晩になつて、ロツテンマイアさんは二人の召使ひを呼んで今朝からの出來事をきびしく調べて要るミ、事の起りはすべてハイデイであつて、前の日に街をほうつき歩いた結果であることがわかつたので、眞蒼になつて怒り出した。

「ア德拉イデ、あなたの様な山出しに、二度とあんな事をしてはいけないことを思ひ知らせるには、穴藏の中へ入れるより仕方がありません。恐ろしい鼠や、まつ黒い甲蟲の出て來る暗い穴藏の中で、よくく自分のしたことを考へてごらんなさい！」

ハイデイはそんなにこわい穴藏を見たことがないので、黙つて不思議さうにその云ひ渡しを聞いてゐた。ハイデイが知つてゐる穴藏さいふのは、おぢいさんの家の、新しいチーズやしほり立てのお乳をしまつておく、氣持のいゝ大好きなところなのだつた。それに鼠だの甲蟲だのさいふものは、ハイデイは見たことがないのだつた。

しかし、クララが泣き出しさうになつて差止めた。

「いやよ、そんなことしちゃいやよ。お父様がお歸りになるまで待つて頂戴、もうぢきにお歸りになるつて、お手紙が來てゐるわ、そしたらあたしがお父様に何もかもお話し申し上げるから、ハイデイのことは、その時お父様が決めて下さるわ」
お嬢様の言葉さあつてはロツテンマイアさんも逆らふわけにゆかず、

「お好きなやうになりますませ。でも私からも旦那様に申し上げたいことがありますのよ」

さ云ひすて、つんけんミ部屋を出て行つた。それから二日間は何事もなくすんだが、ロツテンマイアさんの機嫌はなかく直らなかつた。ハイデイの姿を見れば、絶えずデーテにだまされていかものを掴まされた口惜しさがこみ上げて來た。この子が來てからさいふものは、家ぢうのものが何もかもひつくり返つてしまつたやうな氣がして、しかもロツテンマイアさんにはそれをどうにも直しやうがないのだつた。

クララの方はすつと明るくなつて行つた。ハイデイがしよつちう何か彼か氣のまぎれる事を出かすので、もうおけいこも退屈でなくなつたのだつた。ハイデイはいくら教へても字をぢつちやに

してしまつて、さうしても呑み込めなかつた。それで先生が、この字は小さな角のやうださか、小鳥の嘴のやうださか云つて注意を惹かうごなさるさ、ハイデイは急にうれしくなつて、「あゝこれは山羊だわ」あれはお山のおつかない鳥だわ」なごま叫び出すのだつた。先生の説明は、さういふいろくなものと思ひ出させるだけで、字は少しも覺えなかつた。

おけいこがすんでクララミ遊ぶ時は、ハイデイはいつも山の様子や、そこでどんなに楽しく暮らしてゐるかさいふこさを、細々話して聞かせた。さうしてゐるさ矢も楯もたまらないやうに歸りたくなつて、おしまひにはきつさ、「もうおうちへ歸るわ、明日はほんさうに歸るわ」さ云ひ出した。クララはその度にハイデイをなだめて、お父様がお歸りになるまでお待ちなさい。お歸りになつたら、よく御相談しませうさ、云つて聞かせた。それをハイデイがすなほに聞き分けて、ぢきに元の元氣になつたのは、一日たてばおばあさんのお土産にさ貯めてゐる白バンが、二つ宛殖えるさいふ祕密のよろこびがあるからであつた。おばあさんは黒バンが硬くて食べられないのに、おばあさんの家

には柔い白バンがないと思ふに、ハイデイは自分で食べる氣になれなくて、今でも御飯の度毎に、こつそりご自分のバンをポケットにしまひ込んでゐるのである。

おひる御飯の後の二時間は、クララのお晝寝の時間なので、ハイデイはその間、ぼつねんご部屋に坐つてゐなければならなかつた。こゝでは山でしてゐたやうに自由に外を走りまわつてはいけなないのである。いふことは、いやでもわからせられたし、セバスチャンもお話しても叱られるし、ティネットはいやに横柄に構へてつんつんしてゐるしそこでハイデイは所在ないまゝに、家のこゝを思ひ出しては、もうお山ではそこいら中がすつかり青色になつたかしら。黄色い花が咲き出して、雪も、岩も廣々とした谷も、何もかもが暖いお日様にキラキラ光つてゐる時分だわ。なぎご考へ出すさ、歸りたくてくちごつこしてゐられなくなるのだつた。デーテ叔母さんが、歸りたくなればいつでも歸つていゝご云つた事も思ひ出された。たうさうある日、ハイデイはもうたまらなくなつて、大急ぎで、貯めておいた白バンを残らず赤い肩掛に包み込み、くしゃくの麥葉帽子をかぶつて、下へ

降りて行つた。まゝころが門のまゝころでばつたりまゝ、丁度散歩から歸つて來たばかりのロツテンマニアさんに出會してしまひ、この計畫もすつかり駄目になつてしまつた。

「何です、その格好は。街をうろ／＼うろつくのぢやないつて、あれほご云つておいたのに、又こんな乞食の子のやうななりをして、飛び出さうごしたりなんかして」

「わたし、うろつくんぢやないわ、おうちへ歸るんです」

ハイデイは縮み上りながら云つた。

「なんですつて！ おうちへ歸る？ あなたはまあ、これでもまだおうへ歸りたいの？」ロツテンマニアさんはます／＼腹を立てた。「こんなにしていて、一體この家のまゝが氣に入らないのです。且那樣のお耳にでも這入つてごらんさい、勿體ない。生まれながらこんな立派なおうちで、こんなおいしい御馳走をいたゞいて、こんなに大事にされて暮したまゝが、あなたにありますか、えゝ？」

「ありません」

「それ、ごらんさい。ほしいものは何不自由な

くいたゞいておいて、何さいふ恩知らずなこゝで
す。あんまり十分にしていたゞくので、次のいた
づらのこゝでも考へなければ、するこゝが無いの
でせう」。

するまハイディはたまらなくなつて、この間か
らの悲しさを、一度にぶちまけた。

「わたし、こゝもおうちへ歸りたいの、だつて、
こんなに長く歸らないさ、『ゆき』が又泣き出すん
ですもの。おばあさんも待ちくたびれてしまひま
すわ。わたしがペーテルにチーズをやらさないさ、
ペーテルは又『ひわ』を打つんですもの。こゝぢや
お日様がお山にさよならをいふのも見られないん
ですもの、お山の大きな鳥がこゝに飛んで來た
ら、きつこ一番大きな聲で、さうして人間共はこ
んなこせくした所にかたまつて悪口ばかり云ひ
合つてゐて、氣持のいゝお山の岩の上に來て住ま
ないのか、つて鳴くでせう」

「まあ大變、この子は氣が違つたわね！」

ロツテンマイアさんは薄氣味わるくなつて、あ
わてて引き返さうとした途端、がつしんこセバス
チャンと鉢合せしてしまつた。

「早くあの子を連れておはいり」

痛いおでこをさすりく、ロツテンマイアさん
は階段を昇つて行つた。

「さうしたんです。又めんさうを起したのです
か」

ハイディが悲しさうに、ぢつと動かうごもしな
いので、セバスチャンは傍へ來て慰めた。

「氣にしなくてもいゝのですよ。さあ、元氣を出
して、元氣を出して、わたしをござんなさい。ほ
ら、も少しでおでこに大きな穴をあけられるこゝ
ろでしたよ。お嬢さんはお懶巧で強いんですから
ね。來てからまだ、一ぺんも泣いたこゝは無いち
やありませんか。仔猫がね、氣狂ひみたいに悦ん
でふざけてゐますぜ。あゝでロツテンマイアさん
が出掛けたら、見に行きませうや。ね？」
それではハイディは悲しさうにうなづいただけ
で、元氣なくのろ／＼自分の部屋へ歸つて行つ
た。

その晩、御飯の時、ロツテンマイアさんは一言
もものを云はないで、今にもハイディが突拍子も
ないこゝを仕出かしはしないかき、ハラ／＼しな
がらハイディの方ばかり見成つてゐた。だが、ハ
イディは急いでパンをボケットにしまつただけ

で、後は身じろぎもせず、一口も食べようともせず、じつと坐つてゐた。

翌朝、先生がお見えになると、ロッテンマイアさんはその蔭に呼んで、急に氣候や暮しが變つたのでハイディの頭が變になつたのではないかいふ心配を打ち明けて、前の日ハイディの口走つた妙な言葉やだしぬけの奇妙な行動をすつかり告げた。しかし先生は、驚くほどのことはないと受け合つて、あの子はたしかに一風變つてはゐるが、精神に異状はなく、注意深く取り扱つてよく仕込んでやれば、きつと落ち著いて来るだらう、今まであの子には、さうしても字が覺えられなかつたが、このお話をも参考にして、益々一生懸命に仕込んで行かうと云つた。

ロッテンマイアさんはこれを聞いてやつと安心した。午後になつて、ふみ昨日ハイディがまるで乞食の子のやうな格好をして遁げ出さうと云してゐたことを思ひ出して、ゼーゼマンがお歸りになる時に、もう少しさつぱりした身なりをさせておきたいと、クララのお古をゆづつて著せることを思ひ付いた。クララは快く、いくらでもすきなだけやつておくれと云つたので、ロッテンマイアさん

はまづハイディの持物を検査しようとして二階へ行つた。ところが、二三分もするに、呆れ返つてかんくんに怒りながら降りて來た。

「アデライデ、あなたのだんすの中にあるのは、一體何です？ 著物を入れるたんすの底に、パンを積み重ねておくなんて。ねえクララ様、たんすの中にパンが一ぱい這入つてゐるのですよ、山のやうに！ ティネット、二階へ行つて、アデライデのだんすの中のパンをみんな棄てておしまひ。それから、テーブルの上の古ぼけた麥藁帽子も」

「いやよ、いやよ！ わたし、あの帽子はおいさかなきやいけないのよ。それからパンは、おばあさんのお土産なのよ！」

ハイディは飛び出して行つて、ティネットを引き留めようとしたが、ロッテンマイアさんにしつかりさ抑へられてしまつた。今は身も世もあらずクララの寢臺に泣き伏して、切れぐに泣きじやくりながら悲しさうに聲をはり上げて云つた。

「おばあさんのパンがなくなつちやつたア——みんなおばあさんに上げようと思つたのに、みんな棄てちやふんだもの——一つもなくなくなつちやつたア——」

ロツテンマイアさんは、手のつけ様もなく、部屋から出て行つてしまつた。クララはびつくりして、さうしてよいかわからなかつた。

「ハイデイ、ハイデイ、お願ひだからそんなに泣かないでよ。ね、いゝこゝこ、あたしお約束するわ。あんたが歸る時には、きつこあれと同じだけの新しいフカくしたバンを、おばあさんのお土産に上げるわ。もつこ澤山だつて上げてよ。あんなにして貯めておいても、歸るまでには硬くなつて、腐つてしまつてよ。だからハイデイ、もう泣かないでね」

ハイデイはやつこ少し慰められて、

「ほんさうに下さるの？ あれと同じだけ？ きつこね？」

ミ、こみ上げて来る悲しさに、ミもすれば切れぐくなる聲を張り上げて、幾度もノノ念を押した。

夕飯の時、ハイデイはまつ赤な眼をして食堂に出て來た。白バンを見るミ、又悲しくなつて泣き出しさうになつたが、御飯の時はお行儀よくしてゐなければならぬので、一生懸命に、こらえてゐた。セバスタヤンはハイデイミ目が合ふ毎に、

しきりに自分の頭ミハイデイの頭を指さしながら、何だかをかしな目くばせをした。

ハイデイがベットに入らうとするミ、掛ぶさんの下から、あの古い麥藁帽子が出て來た。ハイデイは大喜びでそれを掴み、餘計形のくづれるのも知らず、いつまでもいちぢつてゐた。それから大切にハンカチに包み、たんすの一等奥のすみにしまひ込んだ。

その帽子をミつておいてくれたのは、セバスタヤンなのだつた。ティネットが呼ばれた時、丁度食堂にゐて、ハイデイが泣いてゐるのをすつかり聞いたので、ティネットがハイデイの部屋から帽子ミバンを持つて降りた時、「それはわたしが始末するから」ミ云つて取つて來たのだつた。夕飯の時、目くばせをしたのは、一刻も早くこのミをハイデイに知らせてやりたかつたからであつた。

幼稚園保育に於ける時局的反省の問題 (四)

— 講習筆記要領 —

倉 橋 惣 三

前號目次

- 一、時局對策としての保育事業
- 二、時局に保育の内面の反省
- 三、國民精神總動員の三標語
- 四、盡忠報國心の教育
- 五、國家心の實感
- 六、幼稚園に於ける個人主義の注意
- 七、堅忍持久

八、持久性の養成の實際

堅忍持久云ふ問題は、その事自身が大切な事は申す迄もありませんが、その問題の本質が元來一人一人の子供の性格教育に關係のある事でありまして、國民の一人一人

の性格が堅忍持久的になつて行かなければこの實を擧げて行く事は出来ないであります。其處で性格に關する根本的問題として教育問題になつて参ります。外の事も勿論教育問題になりますけれど、盡忠報國、舉國一致云ふ事は後益々注意して行かなければなりません。然し日本人の必ずしも今から改めて養はなければならぬ云ふやうな問題ではありません。堅忍持久云ふ事は、これは日本人の本來の性格上の缺陷であるやうにも言はれて居るのでありますから、その意味に於きまして本當に教育的に心配しなければならぬ問題になる言へるのであります。更にその性格を堅忍持久的のものに致しますに就きましたは、或は小學校に於きましてその方針で教育をしなければなりません。中等教育に於きまして同様であります。が、その性格の根柢云ふ意味に於きまして幼年期の教育

問題として是が重要になつて来るのであります。その意味に於て今日の爲、今の爲には青年、又は大人の堅忍持久問題であります、これから先、永い國の問題としましては今我々が預つて居ります幼児、こゝから堅忍持久性の養成と云ふ事を目指して始終保育して行かなければならぬ。斯う云ふ事になる譯であります。

その堅忍持久性の教育に於て實際上さう云ふ點に就て氣をつけるか云ふ事に就ては、或は神經そのものゝ擁護でありますか、その他色々の事を申上げて参りました。この事に就て私は必ずしも時局的反省と云ふのでなく不斷から幼児教育の重要な要件として茲に力點を置いて色々の事を申上げて居るのであります、必ずしも唯今新しい問題になる譯ではありませんが、例へば皆さんにしてはお聴き古していらつしやるかも知れませぬ處の、或る目的をもつて保育を出發させて行く。此方から今日は是をなさいと云ふやうな課業的な保育でなくて、目的を元にして子供の生活を誘導して行く。是を誘導保育等と申して居ります、要するに或る目的を子供に持たして、或は子供の持つて居る目的を取上げてその目的の爲に色々な生活が子供自身の中に生れて来るやうにさせる。是が誘導保育であります。その時間、その日、その時先生から斯う云ふ事をしませうと云ふのでなくて、例へば今日は時計を造りませう、

ラヂオの道具を造りませうと云ふ斷片的な課題ではなく、或は家の中の場面が元になりまして、是は時計がなければならぬ、或はラヂオがなければならぬと段々誘導して行く、是を私は誘導保育と申して居ります。

其處でその事をまたこゝで繰返す迄もありませんが、この目的から出發するに云ふ事は、目的から次の生活活動を誘導して行くに云ふ意味の外に、目的が元にありますから自分達の生活を何時でもその元の目的に返して：：考へる迄もないにしても：：感ずるのであります。つまりそこに生活上の一貫したるものがあるに云ふ事になります。斷片的ではなくして一貫したる或る目的の爲に段々進んで行く或る目的の完成の道を辿りつゝある。是は或る子に於ては非常にはつきりして居りませう、或る子に於ては非常に漠然として居りませうが、兎に角其處にあるのです。幼児でありますから始終それを考へて一日一日に進んで行くものではありますまいが、先生が『段々お店の品物が殖えて來ますね』と云ふか『立派な店になりますね』と云ふ、ちよいと云つて下さる事は即ち子供を自分の生活の出發に置くのです。是等が極めて靜なる堅忍持久であります。堅忍持久と云ふ時局的言葉を保育のあんな處に持つて行きますのは、まるで鉛筆を削るのに大きな鉈を持つて來たやうな譯であります。すけれ共、然し堅忍持久と云ふ事は何もそんなに大袈裟な

事ばかりでなくして、一貫したる生活、生活の一貫性、さう云ふ事が問題になつて居るのであります。今日の問題になつて居るのであります。

長期抗戦、その時に要求されます堅忍持久はどんな困難があつても耐へて行く、何時迄戦争が続いても厭きないで行く云ふ丈の話ではないと思ひます。何時でもそれを元に返して、この七月七日には事變の始まりました一週年の記念を致しましたが、その振り返る事、三年、五年、十年になりましても何時でも元に返す。元に返す云ふのは事件出發の元ではなく、日本が何故この事をして居るか云ふ意味：子供が店を造つたり何かするのとは異つて難しいものでありませうが：それを持たして行かなければならぬ。我々が堅忍持久性が乏しい云ふのは神経が弱くて意志が弱い云ふ丈でなくして、初めの心、初めの志を失つてしまふ云ふ、其處にあるのだと思ふのであります。堅忍持久、さう始終力んで居る譯には行きませぬ。斯う云ふ習慣を養ふには矢張り始終さう云ふ傾向へ、さう云ふ傾向へさ進んで行かなければならぬ。或る人はこの注意散漫の傾向を訂正します爲に、例へば一つの玩具を永く使ふとか、一つの繪本を順序正しく靜に開けて見て行くとか、斯う云ふ事が非常に有效なる教育法であるを申しします。私共も、玩具を次から次へ厭きて投げ捨て、行く子供に

比べますならば、一つの玩具をちつき持ち續けて行く子供は神經の強い子だと思ひます。或は繪本をばらばらしないで順々に開けて終ひまで見て行く子は靜な根の續くだと思ひます。儘にさう云ふ子供があつたらば宜しいのであります。さうでない子供があつたらば憂ふべきであります。更にもつき突込んで言へば、一つの玩具を興へて何處まで靜にそれを使ふか云ふ事、一つの繪本を興へて何處までその本を見て行くか云ふ事はその子の堅忍持久性をテストする事になるのであります。然らば一つの玩具をさうして根氣よく永く持つたせるやうにする事が出来るだらうか云ふ實際問題。『お前はこの玩具を堅忍持久ごっこで遊べ』云ふ事はさうして行くか。繪本を靜にゆつくり見て行かせるにはさうしたら出来るか。茲が問題になつて來ると思ふのであります。皆さんはそれ／＼その方法をお探りになると思ひますが、さうしていらつしやるでせうか。或る方法を片付けてしまふ『お前は厭々性質であるが、天上天下この玩具一つしかないのである。散らうと言つても散る事が出来まい、いゝ氣味だ』位でその玩具を愛玩させるのであります。是も一つの方法ですが勿論澤山散らばつて置いたその中ではを愛玩しろ云ふ事は難しい注文であります。さう云ふ方法も宜いと言はれて居ります。或は散らば

つて居る本の中の一冊をぢゞ見ろ云ふ事は難しい事でありませんが、一冊與へて決して新しく與へない事にする。

『本園に於ては子供の注意散漫を防ぐ爲にキングダーブックも三年前のを一冊與へて新しいのを與へない事にする』云ふ御方針もあるでせう。(笑聲) けれ共、さうする事に依つて餘儀なく一つの事に集中する傾向がついて参りませうけれ共、多分眼に映る外のもので澤山出て来たならばがつゝさしてその方へ行くであります。それでは本當に堅忍持久の内面的に據り處を作り得て居る事は申せないと思ふのであります。其處でまた皆様の中には斯う云ふ方法をお探りになる方があるかも知れない、一つの玩具を與へて是をいつ迄も使ふ子供は良い子供である。『ね、坊やは良い子だね、かるがゆゑに是をぢゞ使ふね』斯う云ふ指導を申しますか、三段論法的やり方。良い子は一つのを大事にする、是は何んの氣もなく子供は聽いて居ります。自分の事にも知らず人の事にも知らず聽いて居ります。(笑聲) 『貴君は良い子だね』云ふ自分の事でありませうから、さうです』言つてしまふ。』かるがゆゑに貴君は玩具を大事にするね』論理的陷穽に落されてしまふのであります。或る子供は第二番目の處、『貴君は良い子だね』言はれても、一寸待つてくれ』さうつかり其處の處を約束致しませぬ。其處の處を『貴君は本當に良い子ね』云ふ尻上り法に依つて子

供はうつかり領いてしまふ(笑聲) さう云ふやり方で訓戒道徳、さう云ふ一つの道徳法云ふものもあります。或は又斯う云ふ方法をお探りになるお方もある。色々の玩具を散らして失くしたり毀したりしたら損である。使へるだけ使つて是が愈々駄目になつたら次のを使ふ。貴君は是をぎの位使ふ辛抱人だらうか』云ふ經濟法もあります。斯う云ふ事はみんな子供が本當に判る事だかさうだか私には疑ひを持つのであります。

或る人はまゝ何んも云ふ事なく唯一つだけ與へて、さうして子供がもう外の方へ興味が移らないやうに閉鎖遮断してしまふ。唯一つにへばりついて居るやうにする。私は白痴院で屢々一つの玩具に堅忍持久的にへばりついて居る子供を見る事があるのであります。白痴は興味擴張性も轉廻性もないものです。必ず一つの處に低徊して居るでせう。ですから一つのものを唯大切にする云ふ事になれば白痴が一番一つのものを大事にするのであります。其處で私は悉くさう云ふものを悪いさういふのではありませぬが、もう少し一つの事を本當に繼續して行く單なる習慣の外に生活それ自身の習慣、單に同じ事を繰返す事に依つてそれが自分の型になつた云ふのも習慣であります。一つのものを何時でも大事にする以上、外のものに氣を轉じない云ふ型がつく云ふ事の外に、『私は何をするにしても初

めの出發點云ふ處に即して行くよ』云ふ生活習慣。是が大事かと思ふのであります。私はその時その時の氣まぐれで背越しの考なんか持つた事がない』云ふやうな生活習慣のものもありますし。何事に就ても、一體是はさう云ふ譯で斯う云ふ事をして居るのだらうと自分で自分に問はずには居られない云ふ少し頑固になり執拗い事になりませうが、其處に自分の心が行かなければ落付かぬ云ふやうな生活習慣。或は何時までもちつて居る習慣、あれは型の習慣であります。獨りでに左側が歩ける云ふのも型の習慣、それではなくて生活そのものゝ動き方に就ての習慣、斯う云ふ意味に考へて來ました時に何んさかして子供が：：單純なる、たわいないやうな生活であらうとも：：自分はさう云ふ處からそれをして來たか、何故斯う云ふ事をして居るか云ふ事を：：そんなに嚴密ではありませぬが：：氣にかけて振返つて見る、其處に行きたいと思ふのであります。

堅忍持久云ふ事は唯一つ事をぢつと石の上にも何年坐つて居る云ふ機械的な意味ばかりではありませぬ。堅忍持久云ふ事は或る意味では徹頭徹尾我儘でない事でありませぬ。堅忍持久は徹頭徹尾我儘の反對であります。我儘に二種類あります。他人への我儘と、自己の志への我儘と二つあると思ひます。赤ん坊がお母さんに我儘を云ふ。幼

稚園の子供が先生に親しさの餘り我儘を云ふ。前の種類です。是は大したものではありませぬ。自分の志に對しての我儘、自分の初めの考に對しての我儘、大人にもあります。或る約束で一緒に歩いて居乍ら一寸した事で：：一寸した事云ふには理由があるのですが、：：その理由に基いて我儘を云ふ。外の人に對して我儘を云ふのでなくして自分の出發點に對して我儘を言つて居る。堅忍持久云ふ事は勿論神經の強さ云ふやうな事が元になつて居りますが、もう一步進んだ處ではさう云ふ内面的の意味をも考へなければならぬかと思ひます。其處でさう云ふ意味を御諒解下さるならば私共の常に主張して居ります目的から出發して行く保育、單なる時間的繼續性でなく、反省を繼續がくつ付いて居る本當の堅忍持久が其處に養はれて來るのではないかと思ひます。

この前に意志の問題は繼續性と反省である云ふ事を申しました。それを分けて申して參りましたが、それをこゝでは一つにした譯であります。勿論斯う申しますのは：：皆さん誤解があるに困りますが：：その子供としての生活の出發點であります。子供に『何故貴君は初めこの幼稚園に來たか、幼稚園に來た以上はちやんさしなければならぬ』云ふ生活全體の大きな出發點云ふやうな、覺悟云ふやうな事をお責めになる事がありますが、さう云ふ事を私

が申して居るのではありませぬ。その子が生活の中で始めた出發點であります。子供が自由遊びをして居ります間に皆さんは始終御覽になると思ひますが、堅忍持久性の乏しい子供は遊びで居ります。堅忍持久性のあります子供は別にさう云ふはつきり約束した譯ではありませぬが、その遊びの出發點を始終持つてそつちへそつちへ即して遊んで居る。堅忍持久性のない子供はその出發點を樂々捨て、しまつて居る。其處でその遊びの出發點を始終持つて居る金太郎は申しますか、堅太郎は申しますか、久太郎は申しますか、その子供が(笑聲)『駄目だよ、途中で止しては駄目だよ』この言葉は實に私共が敬意を表して聽く言葉であります。途中で止しては駄目だよ云ふその途中は云ふ事は出發點に返つて始めて生活の繼續性の中で言へる言葉であります。然も途中は云ふ言葉は人から斷片的に課せられた途中に於て本當の途中は云ふ感じが起りませうか。『今日は鬼に角何んでも宜いから黙つて私の言ふ事を聽いて時計を作らなさい』云ふので時計を作つた、その途中で止めた云ふその途中は時計を作る工程の途中でありまして、その人の生活としての途中ではありませぬ。私は一週間ばかり前に、大きな時計工場の話をお聞きしました。是は亞米利加邊りに幾らもあるのですが、東京でもさうであります。或は皆さんの持つていらつしやる尊き國産の時計はそ

の工場で出來たのかと思ひますが、其處は實に職工が自分の初めの計畫なしに働いて居る標本的の勞働工程を採つて居る處であります。朝八時に始まるので八時に職工が來まして何時迄働く云ふので働いて居りますが、其處では何をして居るか申します。或る職工は針ばかり磨いて居るのであります。或る職工は針金ばかり巻いて居るのであります。或る職工は齒車の出來て來る齒の間違ひだけを直して居るのであります。絶えずそれをやつて居るのであります。本當に機械的なる生活をやつて居るのであります。其處から出て來る問題を色々云はう云ふのではありませぬ。さう云ふやり方でやつて居る職工に途中は云ふ事があるだらうか云ふのであります。何時に今日は是でお終ひ云ふのでサイレンが鳴りベルが鳴るを止めて歸つて行くのであります。途中は云ふ事のない證據であります。唯時間の間で終つた云ふ丈けで自己の生活の途中ではないのであります。途中は云ふ事は自分が或る出發點を持つて居て、その行方を臆氣ながらも、或ははつきり目指して居る時丈けに言へる言葉だと思ひます。私は時々子供達が一生涯命自分の或る考を元にして砂場の作業をやつて居るのを見ます。その時に先生が鐘を鳴らしたので、一人の子供はその時さらさらさつさ砂をふるひ落して何時でもお召出しに應ずるの用意はあるのである云ふので、さう云ふ

行く子供さ、一寸待つて下さい、今途中なんだから待つてくれさ云ふ子供さ二つあると思ひます。茲の問題を保育全般形式にしてはさう云ふ勝手な事を許さかさうか云ふ事を言つて居りますが、今日の茲では折角その子供が途中に云ふ觀念を持つて居る時に、その大事な時に、それを容易に妄に毀す事は考へなければならぬ問題ではないかと思ふのであります。斯う云ふ意味合ひで、子供が遊んで居る中に、始終自分の出發さ終ひを持つて途中に云ふ感じを持つ我々が生活法則に基いて保育するさ云ふ時に、果してそれだけの必然持久要件さ云ふものを持たせるやうな保育法を採つて居るだらうか、さうだらうか、斯う云ふ事を考へなければならぬかと思ふのであります。私は保育原論として目的保育を主張するのであります、殊に時局に於て堅忍持久性の手段さしても目的保育をもう一度新に主張したい氣がするのであります。

人生の始めの数ヶ年、楽しくはありけれ共、氣まぐれで終つたさ云ふその子供の國民的將來に於て、決して堅忍持久性の基礎を與へられたものさ言ひ得られないかと思ふのであります。

辛抱さ云ふ事は堅忍持久の平な言葉であります。その辛抱するさ云ふ事に就きまして二つの意味に私は分解出来ると思ひます。一つは辛抱さ云ふ事を極く原始的さ言ひませ

うか簡單さ云ひませうか、その極く簡單なる意味に於ける辛抱さ云ふ事は、人間の生活力さ云ふものは外へ出て行くのであります、是が或る抵抗を持つた時にその力は更に増して來るのであります。是が一つの法則であります。私が若しこの盆を押さうさしますさ、この盆はさうツツ滑つて行くのであります、私はさうツツ押す丈けであります。若しも是が釘づけされて居りまして非常に重いものでありまして樂に是を私が動かす事が出來ない時、私の生活力は強く出て來るのであります。生活力は抵抗に應じて出て來るさ云ふのが原則であります。その意味から辛抱さ云ふ事を原始的單純な意味からして抵抗を與へられる事に依つて次から次へ増して行く力、斯う云ふ意味になるのであります。その抵抗を與へる事に依つて次から次へ出て行く力

さ云ふ事、是は精神的問題さしても、難しい問題に打當れば益々是を解かうさする力が出て來るさ云ふ事もありますけれ共、先づフィヂカルの、物的的作用さしてさう云ふ事が考へられる。その原則、法則のやうなものを利用して參りますさ、今日の幼稚園に於きまして子供に抵抗を與へられるやうな事が果してさの位あるだらうか、是が問題であります。今日の幼稚園は所謂子供の中から出て來ます自發的さ云ふか、生命の發露さ申しますか、その生活力の中に止めて置けなくて外に發散して行く方法は澤山あるので

あります。殊によりましたならばそれにリズムを添へて樂々さ出て行くものが澤山あるのであります。今日の幼稚園の藝術に仕組まれた遊びはみんな樂々滑かに拍子よく出て行く、さう云ふ行き方で出来て居ります。抵抗を増してもう一つ力を増して来るに云ふやうな事は今日の遊びには非常に少いと思ひます。田舎で育ちました、自然の色々な中で育ちました者は自らさう云ふ機會が澤山ありませう。

『君、一寸その根っこを持つて来てくれ』と言つても重いのではありません。何んの氣なしに抜かうさしても重いのではありません。其處に力が出るのであります。或はこの俵をころがして行かうよと言つてもその俵はひよいさころがして行かうさしても重いのではありません。抵抗を與へるのであります。其處であの小さい子供は顔を眞つ赤にして力んで押して行くのであります。或る抵抗を元にしてこつちの力を出して行く、さう云ふやうな事が今日の所謂都會生活の幼稚園に於ては少いのであります。是は多少私は考へなければならぬ事かと思ふのであります。

私は幼稚園でもう少し斯う云ふ事も加へて宜いかと思ひます。それでは家に歸つて一つこつ子を抜かせよう云ふことも出来ませぬでせうが、(笑聲)今の運動がすべて樂になされる。殊に先生のなさる遊戲のお手本を見て居るご、何んだか骨抜け尻抜け、ぶら／＼して居る。風鈴の

如きは實にちりん／＼して居る。(笑聲)さうしたりズムに合はして居る歌は歌で宜いのでありますが、もう一つ手應へのあるこの要素を少し加へたら宜いかと思ひます。亞米利加では『車を挽かせよ、車を押させよ』と云ふ事を幼稚園で申します。是は相當えんやらさ云ふ重さが抵抗になりまして力が出て来る、この要素を少し加へたら宜い、勿論餘程注意致しませぬ、抵抗を出し過ぎますと大變であります。家の澤庵石を置き變へようと思ふから持つて来ておくれ』と言つても是は落したら大變です。潰れてしまいが、少し重いさか自由にならぬさか云ふ生活行動を與へるに云ふ事も辛抱に云ふさう云ふ原始の意味にもなるのであります。山の中で勞働して居る人が『私はこの位の事は何んでもない、あの大きな岩を一ト月が／＼で動かした』斯う言つた経験を語る事を我々は少し學ぶべきかと思ひます。辛抱のもう一つの意味は、目的に根を置いて：：是は根を抜くのではありませぬ：：然も自分の中に根をおろした故に容易に外へ轉ずる事を敢へてしない、一種の意地であります。あんなものは抜いてしまへ云ふので抜いてしまつたに云ふやうなものではない、目的は立てたがそのまゝ泥もかけずに置いたに云ふそんなものでもない、人が植えたのなら一寸抜けるでせうが自分が植えた、自分が根をおろしたものですから容易に外へ轉じないのであります。前に申

九 總論

四八

しました辛抱は抵抗に對する力のみでありました。後のは意地であります。この二つの意味に於て辛抱は解釋されると思ひます。まア要するに堅忍持久もそんな事で養はれて居るのではないかと思ひます。勿論誤解なさらぬやうにして戴きたいのでありますが、子供の事を論ずる時には、私共大人に適用されて居ります言葉を使ひます爲にその大きき強さが大變見當違ひを生ずる危険があります。辛抱と言ひ、抵抗と言ひ、意地と言ひ、子供に非常に弱い微なものであります。蟲眼鏡で見つけてやつと見つかるとやうな微なものであります。是を大人の標準でやりましたら子供自身は潰れて壓されて死んでしまふのでありますから、氣をつけなければならぬけれ共、私は多少さう云ふ方面が加へられて來なければならぬかと思ふのであります。

堅忍持久のお話をこの前に續けてこゝ迄持つて参りました。其處で大體三つの事を標準としてのお話は終つた次第であります。其處でこの三つの事に就て申上げた程順序を追つたお話ではありませぬが、時局的反省さ云ふ意味からして考へられて來る附録と申しませうか、附録だからと言つてつまたぬものださ云ふ譯ではありませぬが、三つを本論とすればそれに附加へられるものが幾つかあらうと思ひます。それを拾つて簡単に申述べて置きたいと思ひます。

その…餘論でも申しませうか…餘論第一は餘りに決りきつた事ではありますが、もう一度時局的反省さ云ふ上から考へて置かなければならぬ事は子供の健康問題であります。この子供を健康にしなければならぬさ云ふ事は、是こそ幼稚園の本來の趣旨でありまして、幼稚園令第一條に掲げてある事であります。皆の常に心がけて居る事であつて今日何も反省する事ではないやうであります。然しさう考へてみましても今迄の日本人よりはこれからの日本人は何層倍もの健康を要する事は、是はもう非常に顯著、又重大な問題であります。今日迄も人間生活として健康の大事さは論ずる迄もありませんが、これからは實に大事なのであります。其處でその健康を増進して行きます爲に、譬へばこの講習會に於きましても榮養の問題も研究せられまして色々これから皆さんの御苦心を重ねなければならぬ處ですが、この健康さ云ふ事は幼稚園がなし得る範圍さ家庭がなし得る範圍さありますが、實に家庭の方面が六分であり七分であり八分でありまして、家庭が變つてくれぬ限り本當に子供の健康を増進するさ云ふ事は難しいのであります。是は幼稚園の先生方が子供の健康に關してその責任を解除する意味で申すのではありませぬ。其處で餘論は

二つともさう云ふ性質を持つて居るものでありますが、家庭の方へ幼稚園が働きかけて子供の健康増進の促進本部となつて行く云ふ事、是が大きな働きかと思ふのであります。私は實際問題として斯う言つて宜いかと思ふ、今日の幼稚園は、幼稚園の中で子供の健康を増進しようと思つて居る、その努め方もまだ／＼足りないでありませうが、家庭の方へ働きかけてこの問題を促進して行く努力に於ては實に少い、實に足りないと思し得るかと思ふのであります。子供の性格の問題、性質の問題、或は智能の問題、この方も亦、幼稚園が家庭の方へ働きかけて行く任務を持つて居りますが、然もこの方は健康の問題よりも一段難しい問題でありまして、それよりも容易しい健康の問題に就きまして個々別々に家庭へ幼稚園が働きかけて行く必要があると思ふのであります。

藤本先生の御指導に依りましてこれから幼稚園給食の施設を新にお始めになる處があらうかと思ひます。今迄も既になさつて居つた處もありませう。寔に結構な事で、藤本先生もさう言つていらつしやいました、一つの園でもさう云ふ事が行はれましたならば非常に嬉しい事である、斯う仰しやつて居られました、私は先生と話をして居りましたが學校給食と言ひ、幼稚園給食と言ひますものは親の榮養智識榮養センスを増進しない限りその意義は半分も達

せられて居ないのであります。若しも幼稚園で榮養を食はしてくれるのだからそつちの事は幼稚園の方へ頼んでおいて『お前お晝は幼稚園の榮養食だらう、だからうちではお茶漬を食べておいで』晩になる『今日はお晝は榮養食だらう、だから晩はお芋で宜い』斯う云ふ事になつたらば非常に是は飛んでもない事になるのであります。元來幼稚園に云ふものは家庭教育を補ふ云ふあの言葉に於て、幼稚園の存在は家庭教育を教育する處であります。殊に榮養に關しては其處を充分に考へられなければならぬと思ふ。是も藤本先生とお話した事でありまして、本園に於ては百何人の幼児に晝は斯う云ふものを食はして居る云ふ事は、是は言つてみれば餘程妙な事なのであります。榮養は：：是は藤本先生の校閲を得て居りますから安心して申して居りますが：：榮養は全然個人的のものでありまして、その榮養が同一的なものですうッさ行くなんて事は社會事業なら別として幼稚園では出来るものではありません。實際に個人々々の御馳走を作る事は出来ませぬ。貴君はピフテキ、貴君はカツレツ、貴君はフライ、貴君は茹蕪(笑聲)そんな譯には行かない。そんな譯には行かないけれ共、お子さんを預つて一齊的に是を扱つた時にその子供さんには適しいものが出来て来る云ふ事がある。然も精神的の方面でははつきりしないのであります、今の榮養、カロリー、

目方で量れるものは幼稚園で皆さんに仕方なく斯う云ふものを差上げて居るのであるが、斯う云ふ栄養に基いて適當に處置して上げて戴きたい云ふ事が、幼稚園から家庭に到達されて差支へないものと思ふ。當然の事と思ふのであります。折角先生からお貰ひになりました獻立表をお持ち歸りになりました、この獻立表に基いて何週目何日お辨當を検査した處、貴君のは違ふじやないか云ふやうな事を仰しやらないやうにして、めい／＼の家庭の智識センスを促すべきだと思ふ。約めて言へば幼兒の栄養問題は非常にこれから必要であります、今更幼稚園で幼兒の健康問題に置いて日光にあてないやうにする方もありますまい、わざ／＼細菌を幼稚園に貯めて置いてそれを子供に食べさせる方はありますまい。こんな事は申す迄もありません。唯その根本の栄養問題に就て家庭の方へ働きかける事でありませぬ。然らば幼稚園に於ては何が問題であるか、話は當り前の處から實に當り前の處へ押しして參りますが、私は茲の處で當り前過ぎてお話するのも恥しい事ではありますが、幼兒健康の爲に保姆諸君の健康を第一要件とした、斯う云ふ問題であります。

保姆諸君の健康は保姆諸君の任務をお果しになる爲に必要である事は云ふ迄もありませんが、私はあの毎日信賴

して親んでお傍についてお母ちゃんの顔よりも餘計眺めて居る：：お母ちゃんの顔は燈がつかないで餘り見ないが、明るい内は先生の顔丈け見て居るあのお顔：：適切に言へはそのお顔、そのお顔でありますよ。(笑聲)このお顔が健康であるかどうか云ふ事は子供に非常に影響を與へるものであります。私は決して消極的意味に於ける、保姆が結核を持つて居るさ子供に結核がうつるから、保姆がコレラださ子供にコレラがうつるから云ふやうな、さう云ふその方面を申して居るではありません。毎日お目にかゝる保姆さんがお丈夫であるか、さうか云ふ事は：：健康色云ふのか、健康美云ふのか、兎に角全體の何から何まで健康が溢れて居るか、さうか云ふ事は：：子供の健康増進の大きな問題であります。大學教授はさうでなくとも宜いかも知れませぬ。藝術の學校に於てはさうでなくとも宜いかも知れませぬ。けれ共、幼稚園の處ではそれが根本でありますので保姆自身の健康を特に言ひたい處であります。輿論の第一は平凡な處で終つて置きます。

十 餘 論 二

餘論第二の問題は全く別の事になりました是は愈々時局に即しての問題になります、今日の時局は改めて申上げる迄もない如く、國が金の要る時なのであります。

す。矢鱈に金の要る時なのであります。あの澤山の戦費を補つて行かなければならない金の要る時期なのであります。この金の要る時期云ふ事からしまして日本の到る處に節約を要求せられて居るのであります。其處でこの幼稚園に於ては……この國策線に沿つて云申しますか……云ふ節約が出来らうか、云う云ふ節約が出来らうか、この問題であります。但し私はこの問題を茲に掲げ乍ら教育そのものにつきましては出来る限り存分な事が子供にしてやりたい、いざとなれば別問題であります、幸ひなる哉、今日の實狀に即しまして出来るだけ存分な事をしてやりたい、殊に遠慮なく申しますれば平生から幼児の教育の爲の消耗費も材料費も決して充分に使はれて居るは言へない。我が國の今日の幼稚園の實狀を經濟問題から離れて見ますならば、實に材料を使ひ惜みして居るのであります。材料を充分に使ふ事なくして子供の生活活動を豊富ならしめて行く事は幼稚園として難しい事でありませぬ。教育として出来るだけ一ぱいの事がしたい云ふの云、現狀がそんなである云ふ事と合せまして、是以上幼稚園がさう節約して行くか、うつかりそんな事は言へませぬ、國策線上に沿つてこれからは晝も書かせませぬ。手技材料も提供しませぬ。遊戯も歌を唄ふだけ、その遊戯も床の傷まないやうに靜にする。斯う云ふ事になります事を恐

れるのであります。皆様へ云ふのではないが、日本全體の幼稚園を見るに、何かの理由に依つてそんな方針を執つて居るのではないかと思はれる幼稚園もあるのであります。『何しても材料がかゝりますので……』自分の保育の不完全をぬけ……云言つて居るのであります。例へば今度及川講師から云はれました廢物手技政策であります。煙草の空を用ひるさか色々古いものを用ひる、斯う云ふ事に依りまして其處にまだ工夫の餘地があるかと思ひます。思ひますが、私は日本の幼稚園に節約をお奨めしたいし、或る幼稚園にはうつかり節約をお奨めするごんな事になるかと思はれますのでこれだけに致しますが、唯今最近の統計を持つて居りませぬが昭和九年の統計に依りますと、日本の幼稚園の幼児数は十四萬三千四百六十九人でありませぬ。昭和十三年に於きましてはもつと殖えて居る事と思ひます。この十四萬三千四百六十九人云ふ幼児が……私が下手な數學を出して計算してみました……一週間に一錢、幼児の爲に親が貯金するに致します。幼児が貯金すると言つたつて出来ませぬから親がする、月曜貯金さか、貯金ですから金曜貯金が宜いかも知れませぬ。一週間に一錢づつ貯金致しますと一年間に七萬一千七百三十四圓五十錢になるのであります。この七萬一千七百三十四圓五十錢云ふものは一週間に一錢、親の用意から何か節約して貯金した大

きな量であります。若しも是を一日に一錢づゝ貯金して来るに非常に大きくなつて五十二萬二千六百六十一圓八十五錢になるのであります。其處でこの五十二萬二千六百六十一圓八十五錢、是は非常に大きな意義を持つ金だと思ふのであります。

是は幼稚園の話ではありませんが、政府は斯う云ふ統計を私共に示して居るのであります。一日にマツチを三本づゝ節約する。煙草を吸ふ人はほんくゝ使ひます。中には耳をかいて居る人もありますが、ほんくゝ捨てます。その三本づゝを節約致しますと一年間に七百六十六億五千萬本残るのであります。是は日本の人口を六千萬としてあります。この七百六十六億五千萬本を七十五本入の小さい箱に入れますと十億箱以上になるのであります。今日マツチは幾ら致しますか、最近に於きまして値段はずつと騰りました。私は始終貰つてばかり居りますので、よく知りませぬが、一錢五厘か二錢になつて居るのではないか、若し一錢五厘として勘定してみても七百五十萬圓になるのであります。この明細なる計算、さうした大きな數量の出て來ます處を元にして幼児一日貯金を計算してみたのであります。若しも私に信用がありまして……云ふのはお前がそんな事をしてくすねるのではないか云ふ疑ひの意味でありますが……日本全國の方に御同意を得て是丈けの處置を

執つたまするならば、私は一週貯金ならば七萬圓、毎日貯金ならば五十二萬圓の貯金を日本幼稚園の名に於て獻する事が出来るのであります。或は茲にお集り下さいました方々丈けの御賛同に依りまして、幼児を云ふそれぞれ子供をお持ちになつて居る方でありますから(笑聲)さう云ふ幼児丈けでも相當なものになると思ひますが、私はさう云ふ信用があるとは思つて居りませぬから直ぐお預りしようとも思つて居りませぬ。唯さう云ふ事も知つて置いて宜い事だと思ひます。

私は家庭に於て月曜一錢貯金は何んでもないと思ひます。或は毎日一錢貯金も大した問題ではなからうかと思ふのであります。念の爲に私は保姆さんの數で同じ事を勘定してみました。大人の方の少し大高の方で考へてみました。政府の統計に斯う云ふ事が出て居るのであります。一人が木綿の浴衣を一着づゝ節約すれば六千萬の日本人に於きまして三千萬圓の節約が出来るのであります。然も木綿の浴衣一反を五十錢見積つてあります。餘程涼しい浴衣だと思ひます。(笑聲)その涼しいのでも三千萬圓、是はマツチよりも大高の話でありますが、この論法を借りて來て日本の保姆さんが何人おいでになるか云ふに、是も昭和九年の統計で五千八百七十二人いらつしやる。其處でその五千八百七十二人の保姆さんが……幼児と同じでは寔に

相済みませぬ、一日百圓位で宜いかと思ひますが(笑聲)計算が面倒になりますから一日一錢にして下さい……一日一

錢貯金して下さい、一日一錢はキヤラメル幾個に當ります事か、白粉幾粉に當ります事か、私は計算して居りませぬ。(笑聲)兎に角一錢を貯金して下さい一年に二萬一千四百三十二圓八十錢なるのであります。保母さんは毎日が宜しいと思ひます。一週一度なんて云ふとお忘れになりますから、(笑聲)幼児の方は母親がするのですから安心です。保母さんの方は御自身なさるのですから心配です。毎日の方が宜しいと思ひます。さうするに二萬一千四百三十二圓八十錢、斯う云ふ計算を假に作つてみました。是は皆さんが幼稚園に云ふ立場から御指導になりましたらすつと變つた問題も起つて来るのではないか斯う思ふのであります。幼児健康増進の大きな目的の爲に家庭に働きかけるに共に保母の健康を必要に致しました。この論法と同じ論法をもちまして、保母さんが一錢入れて見せる必要はありませんが……振つて御覽、音がするだらうなんて事はしなくとも宜い(笑聲)……保母さんの時局的質素さ云ふものは、大變にその上在意義を持つものかと思ふのであります。保母さんがその健康なしに幼児に健康を説いたつて、或は保母さんの質素さなしに幼児に家庭に節約を傳へても充分の効果を果すものではなからうかと思ふのであります。

十一 餘論 (三)

餘論の第三を申上げて終る事に致しますが、健康に於て私は相當重さに耐へ、力を一ぱい出してみる積極體育のやうな事を説きました。リズムに合せて唯和やかに踊つて居るに云ふ以上に、ちつとは力行に云ふやうな事を加味し得るか云ふやうな事を計畫し、經濟の方は節約一點張り得るに節約して居りますが、一方でそれ程に力み、一方でそれ程に節約して居りますが、最も力んでならぬものは、節約してならぬものは保母さんの笑顔であります。私はこの時局に於て何んもなく荒つばい、何んもなく殺伐たる、非常時的空氣に満ちて居りますこの時期に於きまして、一切の事これに添ふて子供を連れて行きますと同時に、この時こそ保母さんの笑顔も非常に必要な時だに痛感するのであります。『非常時だ、笑ふか。前には餘程笑つたが節約する。』(笑聲)斯う云ふ事は許されないのであります。私は家庭のお母さんに頻りに是を説いて居るのであります。そおつと笑つてやつて下さい、若し晝間笑つてお咎めがあるならば夜そおつと笑つてやつて下さい。茲が唯時局に添へば宜い云ふ丈け以上に幼児を託されたる者として、幼児を預つて居る者としての心やりであります。

私は、出征者を送つた話、或は戦地のニュースを聴いて、

それを子供に話してやるに云ふ事もぐんぐんさらなければならぬ事ですが、一方にはそおっこにこやかに：：勿論それを取違へて、『へん、さうでね、激しい戦ひが起つてね、萬歳と言つて、にこりこ笑つて』なんていふ時笑顔なんかしてはいけません。(笑聲)是は嚴肅な意味なんですから：：子供を連れて花園の周圍を歩く時、子供さ差向ひでお話し

て居る時、一層の笑顔を惜みなく貴君方の託されたる子供の心情の上に與へて貰ひたいに云ふ事を申上げるのであります。そんなことがそんな時であらうとも、保姆さんごお母さん丈は、あの幼児に微笑みを與へることを忘れないで下さい願ふのです。

是で私のお話を終る事に致します。

〔完〕

關東州保育會

關東州に保育會が生まれ、十一月二十三日、大連市伏見臺幼稚園に於て發會式が舉行されました。左に規約を抜萃しておきます。(編輯部)

規約

- 第一條 本會ハ關東州保育會ト稱ス
- 第二條 本會ハ幼稚園保育ノ向上進歩、發達、普及ヲ圖リ保育者ノ研究修養ニ資スルヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ關東州内ノ保姆並保育關係者ヲ以テ組織ス
- 第四條 本會ニ入會セムトスルモノハ住所、關係幼稚園名及氏名ヲ記載シ本會ニ申込ムヘシ
- 第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク、其ノ任期ハ二ケ年トス
 - 會長、一名、副會長、一名、顧問、若干名、
 - 評議員、若干名、幹事、若干名、
- 第六條 會長、副會長ハ評議員會ノ議決ニヨリ之ヲ推戴ス
- 顧問ハ會長ノ推舉ニヨル
- 第七條 評議員ハ會員ノ互選ニヨリ之ヲ定ム
- 幹事ハ會員ノ中ヨリ會長之ヲ依囑ス
- 特ニ本會ノ事業ヲ贊助スルモノヲ贊助員トシ會長之ヲ推舉ス
- 役員ハ任務左ノ如シ
 - 會長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ統理ス
 - 副會長ハ會長ヲ輔ケ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス
 - 評議員ハ本會ノ事業並豫算、決算等ノ重要ナル會務ヲ評議ス
 - 幹事ハ本會ノ事業計劃並實行ニ關スル事務ヲ掌リ會計及庶務ヲ分擔ス
 - 本會ハ第二條ノ目的ヲ達成スルタメ左ノ事業ヲ行フ研究會、協議會、講習會、展覽會
 - 其他必要ト認ムル事項
- 第九條 本會ノ經費ハ會費並補助金寄附金等ヲ以テ之ニ充テ會員ノ會費ハ月額二十錢トス
- 第十條 本會ハ毎年一回總會ヲ開キ本會ノ事業並會務ヲ報告ス
- 第十一條 本會ハ事務所ヲ譚家屯幼稚園内ニ置ク
- 第十二條 本會ノ規約ヲ變更セムトスルトキハ總會ノ決議ヲ經ルヲ要ス

保育實習科新卒業者

東京女子高等師範學校保育實習科は昭和十四年三月、左の二十四名の新卒業者を保育界に送り出さうとしてゐます。皆それ〴〵適當な働き場所を得て斯界の爲熱心にその職に従事し度い希望に燃えてゐます。

氏名	出身校	生年月日	氏名	出身校	生年月日
淺見 あい	東京 實踐高等女學校	大正十年三月十九日	佃 悅子	廣島縣立三原高等女學校	大正十年五月十六日
石川 靖子	東京 立正高等女學校	大正十年三月一日	所 雅代	神奈川高等女學校	大正十年六月十五日
遠藤美也子	日本女子大學校附屬高等女學校	大正九年五月七日	富永 百合	東京府立高等家政女學校	大正十年五月二十九日
大橋 美代	東京 櫻蔭高等女學校	大正九年七月二十一日	中島 鈴子	千葉縣立佐原高等女學校	大正十年九月八日
川村 フミ	大連 神明高等女學校	大正十年七月二十三日	長坂 靜枝	新潟縣立佐渡高等女學校	大正十年十二月二十四日
上遠 文子	東京 青山學院高等女學部	大正十年一月二日	橋本 せい	東京府立第八高等女學校	大正九年十月二十八日
小島 七重	東京府立第五高等女學校	大正九年七月七日	久永 敏子	東京女子高等師範學校附屬高等女學校	大正九年八月十日
越山 久子	東京府立第五高等女學校	大正九年四月十七日	木多 良江	東京府立第一高等女學校	大正十年一月二十四日
齋藤 公子	宮城縣第一高等女學校	大正九年九月五日	松平 仁	東京女子高等師範學校附屬高等女學校	大正十年二月十五日
鈴木 靜	東京府立第六高等女學校	大正十年二月七日	依田 義子	東京女子高等師範學校附屬高等女學校	大正九年十月一日
田中 光子	愛知 淑德高等女學校	大正九年十一月二十二日	横倉 文子	栃木縣立宇都宮第一高等女學校	大正十年四月十日
高宮 愛子	千葉 町立野田高等女學校	大正九年十二月五日	吉井 正子	群馬縣立前橋高等女學校	大正十年十一月十六日

のめたの子こ母

院醫屬附に並所究研育愛

◇所開りよ旬中月二十よいよい◇

愛育研究所は去る十一月二十九日年度開所式を挙げ、いよいよ来る十二月中旬より事業を開始して母子子のための醫學的、心理學的、教育學的、綜合研究は着々始まりられることになりました。

附屬愛育醫院では、左記の規定によつて一般の診療に従事することになりました。

小兒科一般診療

外 來

受付時間
四月一日より 自午前八時
十月三十一日まで 至午前十一時
十一月一日より 自午前九時
三月三十一日まで 至正午

休日 日曜日、大祭祝日

往 診 院内の業務に支障を來さぬ範圍で往診の需めに應じます。

入院料

普通病室 一日 金參圓
個人病室 一日 金六圓
入院料は食費、普通藥價、看護料、寢具料、照明料等の外検査料及處置料の一部を含みます。

小兒の健康相談

受付日時 毎週火曜日、木曜日の午後一時より

午後三時まで。
此の日は同時刻に兒童教養相談が當所内に開設されて居ります。

健康相談は無料です。

但し特殊處置に付ては其の料金を申受けます。

乳兒哺育の受託

受付時間と休日 小兒科外來と同様です。受託の乳兒は生後一年未滿のものに限ります。

哺育料は一日金五十錢です。

兒童教養相談

相談事項

智能検査、精神發達の診斷、躰方の問題、惡癖の矯正、智能及性格異常兒取扱の問題、幼稚園及學校に關する問題等兒童教養の全般に互る事項

相談受付の日時

毎木曜日の午後は本所區横川町四丁目愛育隣保館に於いて、土曜日の午後は日本橋區白木屋四階相談室に於ても相談を受付けて居ります。

相談兒童の年齢

主として乳幼兒及尋常小學校第一、二年在學の學童に付ての相談を受付けます。

相談料は無料です。

但し特殊處置に付てはその料金を申受けます。尙申越次第詳細なる愛育醫院案内を御送りします。

(「愛育」十二月號より轉載)

本誌
三十八卷總目録

一月號

卷頭—保育報國	倉橋惣三……………一
幻	下村壽一……………二
虎	尾上柴舟……………三
小學校の入學準備に就て	堀七藏……………三
幼兒の遊び(二)	牛島義友……………三
雪女	小川未明……………三
事變と玩具	山田徳兵衛……………三
光と炭の挿話	林太郎……………三
幼稚園を覗く(四)	竹村一……………三
時局の保育、時局の影響を各地幼稚園に訊く	
岩手 女師附屬幼稚園……………三	
福島 郡山幼稚園……………三	
東京 大和郷幼稚園……………三	
本郷第一幼稚園……………三	
富士見幼稚園……………三	
大阪 中大江幼稚園……………三	
大分 成溪幼稚園……………三	
ハイデーヨハンナ・スピリ原作—	津田芳雄譯……………三

二月號

卷頭—御國の子ども	倉橋惣三……………一
幼稚園に於ける健康教育	野津謙……………二
子供と環境(四)	山下俊郎……………三
子供黨列傳(四)	石井庄司……………三
おひな様	及川ふみ……………三
戰爭を描いた昔の隨意畫	新庄よしこ……………三
猫と彼	久米又三……………三
フレーベル賞幼兒手技審査發表……………三	
フレーベル賞手技審査に就て審査員諸氏の御意見御感想	及川ふみ……………三
此後の幼兒の手技は用材を擴げて考へたい	岸邊福雄……………三
幼兒に適するといふことに就て	倉橋惣三……………三
手技審査雜感	山形寛……………三
手技作品集に就いて	和田實……………三
フレーベル賞入選手技	
萬燈	荒磯壽子……………三
粘土おしふ	K……………三
雪だるま、雪兔	S……………三
時局の保育、時局の影響を各地幼稚園に訊く	三浦豐子……………三
大阪市立久寶幼稚園……………三	
再び豊田美雄子先生をお訪ねして……………三	

可愛い、幼児畫の手拭……………津田芳雄譯……………空
ハイティーヨハンナ・スピリ原作—

三月號

卷頭—保育修了の月

お寶の島

育ての根據

子供黨列傳(五)

一年保育に就て

フレール賞入選手技

兵隊さん

繪馬

金魚鉢

大鋸屑繪

母達の話題

子どもの體について

幼児教育の文化性(五)

ハイティーヨハンナ・スピリ原作—

四月號

卷頭—新しい子等に蘇る先生

保姆養成所の問題

筵一枚で保育する人

津田芳雄譯……………空

倉橋惣三……………一

小川未明……………二

倉澤剛……………七

石井庄司……………三

坂内ミツ……………四

堀田景子……………六

藤井君代……………九

司馬重子……………二〇

西口志佳……………三

常石貞子……………五

幼稚園衛生室……………六

倉橋惣三……………七

津田芳雄譯……………空

倉橋惣三……………一

早川喜四郎……………二

保姆養成に當りて

保姆養成に就て

時局と保姆養成所

保姆養成事業の重要性

私の養成所の概況

保姆養成所の重要點

益々重要性を加ふる保姆養成

ソファヤ・アラベラ・アルウキン……………二六

保姆養成の二方面

保姆養成機關の問題に就て

保姆養成所しらべ

子供の軍歌

新入園兒を迎へる

入園兒童に就て

新入園兒を迎へる心組

新入園兒を迎へる

母子保護療法に就て

幼児お父さんと先生

童話

ナチス幼稚園保姆養成所の教案

エヌ・ポー・マン……………五

和田實……………八

神原きく……………一六

太陽保育學園……………一九

土川五郎……………三三

マーガレット・エム・クック……………七

ソファヤ・アラベラ・アルウキン……………二六

森川正雄……………三〇

倉橋惣三……………三三

記者……………三六

岸邊福雄作歌……………三三

弘田龍太郎作曲……………三三

ベルニス・ジャンセン……………四四

藤本ツギ……………四七

檜山京子……………五〇

高島巖……………五三

武田雪夫……………五九

多田鐵雄……………七〇

五月號

卷頭—若葉

倉橋惣三……………一

保育所の使命と其の本領

農繁期託児所の經營

母子保護法に就て

フレーベル賞入選手技

金魚鉢・臺

兵隊さん

木の葉應用貼紙

櫛

五月の一週間

四月の一週間

池と子供
ナチス保姆養成の教案

六月號

卷頭―六月のみざり

こどもの意味

幼稚園は教育に對して何を貢獻し得るか

水棲昆蟲記―みつすましの繭造り―

變つた性質の幼児について

齒と食物

第三回フレーベル賞審査發表

第三回フレーベル賞、幼兒童話審査に就て審査員諸氏の

藤野井行仁……………二

荒井庄次郎……………六

高島 巖……………三

小田桐 たか子……………元

三 浦 秀……………三〇

池野 倍 子……………三二

横瀬 末 子……………三三

S . K……………三三

杉山 米 子……………三三

町田 行 子……………三三

多田 鐵 雄……………三六

倉橋 惣……………一

石川 謙……………二

カサリン・アカナ……………五

久米 又 三……………九

及川 ふ み……………一六

湯淺 泰 仁……………三二

……………三三

御意見御感想

選後の感想

忠實なる作品を數ふ

苦言

選者の一人として

入選童話

さいとうばらひ

春が來た

ニコ／＼グルマさん

「劇あそび」について

時局の保育、時局の影響

今夏の文部省主催保育講習について

本會主催夏期講習會に就て

ハイティ―ヨハンナ・スピリ原作―

七月號

卷頭―つゆばれ

幼兒の夏季衛生

紫外線の話

水棲昆蟲記

子供・子供・子供

童心慰問の旅
氏原鏡女史を悼む

小川 未 明……………三

岸邊 福 雄……………七

倉橋 惣……………六

新庄 よ し こ……………元

K . S……………三

杉山 よ ね……………七

佐藤 久 子……………三

山村 き よ……………三

……………三

津田 芳 雄 譯……………六

……………六

……………六

……………六

……………六

……………六

……………六

……………六

……………六

……………六

……………六

……………六

……………六

摘草と子供

子どもどりズム

入選童話

河童の瓶

でんぐし蟲のお話

狸とお園子

雲のトンネル

御紹介

ハイデュー・ヨハンナ・スピリ原作

九月號

巻頭—補ふ心

子供と環境(五)

水棲昆蟲記—がむし—

夏日漫筆

幼児の生活に於ける繪本

體驗の中から

恩師氏原鏡子先生を偲び奉る

師弟の縁

「劇あそび」の脚本(二)

ごども・むし

私が幼稚園の子供だった時

入選童話

氏原 鏡子……三

清水 光子……七

田中まり子……四〇

山本ゆき子……四四

石堂トヨ子……五〇

桂本美枝子……五五

津田芳雄譯……六五

倉橋 惣三……一

山下 俊郎……三

久米 又三……六

曾 根 保……二

築 添 正 二……六

A・B・C……七

宮崎 しか……三

大塚 喜一……四

山村 きよ……六

杉山 米子……五

………

粘土のよろこび

公園の樺

東京市養育院に奉職して

この夏の講習會

夏休みの或る日

旅のさきさき

ハイデュー・ヨハンナ・スピリ原作

幼稚園保育に於ける時局的反省の問題(一) 倉橋 惣三……七

十月號

巻頭—彈力

幼少時に於ける民族優越性の獲得

消化の話

鮮満—話—詠(上)

漫筆—話—詠(上)

幼児の生活に於ける繪本

偶 感

内臺幼児を保育して

本島幼児保育の立場から

入選童話

眞夫ちやんとお太鼓

觀察の本と、唱歌の本とを出したに就て

ハイデュー・ヨハンナ・スピリ原作

幼稚園保育に於ける時局的反省の問題(二) 倉橋 惣三……六

小鹽 れい……七

藤 野 まさ……三

菅野 よしこ……六

新庄 よしこ……六

幼児の母……七

田中美枝子……七

津田芳雄譯……七

倉橋 惣三……七

倉橋 惣三……一

森川 正雄……三

藤本 薫喜……四

葛原 しげる……六

築 添 正 二……九

及川 ふみ……三

川西 久子……六

佐 竹 花……元

眞木 喜久子……三

倉橋 惣三……三

津田芳雄譯……七

倉橋 惣三……六

十一月號

卷頭—秋晴

具體と抽象と表現

殘花集園(日本幼兒教育史資料)

鮮滿—話—詠(下)

漫筆

幼兒の保健に就て

海への幼稚園

ある日

ハイデイーヨハンナ・スピリ原作—

幼稚園保育に於ける時局的反省の問題(三)

十二月號

卷頭うしろ向き

兒童と社會訓練

殘花集園

幼稚園に於ける健康教育の試み

可愛い、慰問

關西聯合保育大會建議案

ハイデイーヨハンナ・スピリ原作—

幼稚園保育に於ける時局的反省の問題(四)

倉橋惣三……一

黒田成勝……二

石川謙……七

葛原しげる……一〇

山崎とき……一三

高濱きみ……一六

町田行子……一八

津田芳雄譯……二六

倉橋惣三……三五

倉橋惣三……一

依田新……二

石川謙……七

穂積篤子……一〇

………一五

………二〇

津田芳雄譯……二六

倉橋惣三……三〇

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 下村 壽一
 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋 惣三
 附屬幼稚園主事

日本幼稚園協會規則

第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習

會ノ開催
 一、雜誌發行(毎月一回)
 一、幼兒教育ニ關スル圖書發行
 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 會長 一名 會務ヲ總理ス
 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス

第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス

第十二條 本會ハ必要ニ應ジ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ

第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定規文注
 一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。
 一、(郵券代用の場合は總て一割増)で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
 一、送金の節には第何卷第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帯封に前金切の印章を押捺いたします。其節は早速御送金を願ひます。
 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

定價

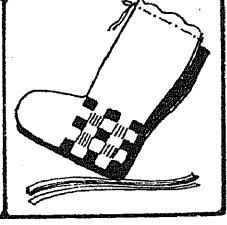
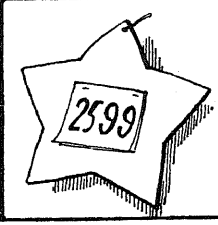
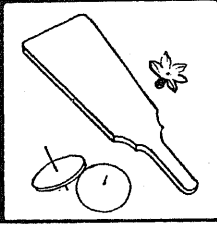
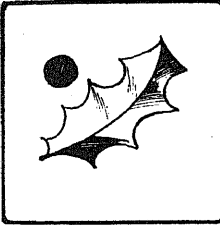
ヶ月分	冊	金參拾五錢	特等面一頁二等面一頁
半年分	冊	金貳拾錢	廣一頁一頁一頁
一年分	冊	金拾錢	廣一頁一頁一頁
拾貳冊送	金四圓貳拾錢	廣一頁一頁一頁	神田區駿河臺ノ三品田廣告社に御申込下さい

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)
 昭和十三年十二月十三日印刷納本
 昭和十三年十二月十五日發行
 幼兒の教育 第三十八卷 第十二號

不許複製 禁止轉載

編輯者 倉橋 惣三
 發行所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
 印刷者 柴山 則常
 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
 印刷所 會社 杏林 舍

發行所 日本幼稚園協會
 振替口座東京一七二六六番
 東京市小石川區大塚町三十五
 東京女子高等師範學校附屬幼稚園內



降誕祭とお正月の手技材料

豊富に取揃へて御用命をおまち致します。
 前線の兵隊さん達も、可憐なお子達のお
 細工を待ちこがれてゐますごか、サア樂
 しく拵へて慰問袋にも入れて上げませう。

- ◇ ストッキング用織紙 五十組 一圓
- ◇ 星(金銀の美しい星) 一箱 三五錢
- ◇ 柗の葉 一箱 三五錢
- ◇ お誕生祝の鯛 百枚 一、八〇錢
- ◇ 後藤連繫紙 一箱 三〇錢
- ◇ 國旗三日の丸、提灯三日の丸 一箱 二〇錢
- ◇ カレンダー掛星形臺紙 五十枚 二、五〇錢
- ◇ 羽子板材料 十本 八〇錢
- ◇ 獨樂用材料 五十個分 七五錢
- ◇ モモトラウカルタ 二五錢
- ◇ 健康カルタ 一八錢

外に後藤先生案新手法各種

食館レベール社 株式會社

本社 東京・神田・神保町二丁目(33)電話 三六六二番
 支店 大阪・東區・後備町五丁目(24)電話 八三九七番